

第 2 部

大阪大学大学院人文学研究科 芸術学専攻

各専門分野・コースにおける 教育・研究活動の概要

【凡 例】

- I．組織については、教員、在學生は2022年5月1日を基準とし、この時点での教員および在學生の現員を示す。また修了生については、2022年度(2023年3月修了)について記す。
- II．大学院生の研究業績、受賞等は、2022年度に在籍した者が、その在籍期間中に発表あるいは授与されたものについて記す。また2022年度におこなわれた学位授与について、課程博士と論文博士にわけて記載する。
- III．教員の研究活動については、原則として2022年度に各専門分野・コースに在職した者のデータを示す。研究業績については2022年度の在籍期間中に発表されたものを記載する。2022年度中に、本研究科大学院生であったものが本研究科教員になった場合には、その大学院生時代に発表した研究業績をあわせて記入する(この場合には大学院生の研究業績の欄にも同じ業績が示される)。なお受賞についても2022年度中に授与されたものを記載する。

アート・メディア論

I. 教育活動の現況

1-1. 教育活動の概要

【2022 年度】

授業においては全体演習において、各院生の研究テーマへの個別的、集中的な指導を行った。メディア実習は後期に実施し、授業を通じて各自のメディア運用能力は着実に高まっている。また実践的活動も推奨したので、院生の多くは学内外のさまざまなフィールドで活動、研修を重ねている。

1-2. 教員数・学生数

1-2-1. 教 員 (2022 年度 5 月現在)

教授 5 名 准教授 2 名 講師 0 名 助教 1 名

教 授：永田 靖、園府寺 司、桑木野幸司、藤岡 穰、輪島 裕介

准 教 授：古後奈緒子、東 志保

助 教：鈴木 聖子

1-2-2 在学生 (2022 年度 5 月現在)

【人文学研究科】		2022 年度の学生数					
		大学院 博士前期 (M)	大学院 博士後期 (D)	特別 研究学生	特別 聴講学生	科目等 履修生	大学院 研究生
総 数		12	0	5	0	1	0
留学生	国費	0	0	0	0	0	0
	私費	3	0	5	0	0	0

* うち留学生 3 名、社会人学生 2 名

【文学研究科】		2022 年度の学生数					
		大学院 修士 (M)	大学院 博士後期 (D)	特別 研究学生	特別 聴講学生	科目等 履修生	大学院 研究生
総 数		14		0	0	0	0
留学生	国費	0		0	0	0	0
	私費	4		0	0	0	0

* うち留学生 4 名、社会人学生 2 名

1-2-3 修了生 (2022 年度)

	大学院 博士前期・修士(M) 修了者	大学院 博士後期(D) 単位修得退学者	大学院 博士後期(D) 博士号学位取得者
人文学研究科			

文学研究科	6		
-------	---	--	--

1—3. 国際化

1-3-1 大学院生等の留学（2022 年度）

【人文学研究科】 0 名

【文学研究科】 0 名

1-3-2 外国人研究者の受け入れ状況（研究者名、国、所属先）

計 0 名

1—4. 地域連携

1-4-1 社学連携、リカレント事業、地域連携事業一覧（事業名・主催者・実施期間）

（教員）

永田靖、鈴木聖子、古後奈緒子（中之島に鮠を放つ・大阪大学中之島芸術センター・大阪大学大学院人文学研究科・大阪大学総合学術博物館・2022 年 7 月 23 日～2023 年 3 月 4 日）

（学生）

高瀬幸子(M2) 2022 年 5 月 10 日～ 豊中ブランド戦略審議会委員(2024 年 5 月 9 日まで) 社会連携活動

2022 年 6 月 3 日 令和 4 年度第 1 回豊中ブランド戦略審議会@豊中市役所

2023 年 2 月 16 日 令和 4 年度第 2 回豊中ブランド戦略審議会@豊中市役所

福島尚子 「公立美術館における障害者等による文化芸術活動を促進させるためのコア人材のコミュニティ形成を軸とした基盤づくり事業」(文化庁委託事業「令和 4 年度 障害者等による文化芸術活動推進事業」主催：文化庁 / 一般社団法人 HAPS) リサーチャー

1-4-2 市民向け講座・講演（講座名・主催者・実施日）

なし

1—5. 大学院生・若手研究者などの支援

1-5-1 各種研究員の受入状況

【招へい研究員】

なし

【学術振興会特別研究員】 注）3 年間など長期で採択した場合、毎年カウント

【人文学研究科】 DC1：0 名 DC2：0 名 PD：0 名 RPD：0 名（計 0 名）

【文学研究科】 DC1：0 名 DC2：0 名 PD：0 名 RPD：0 名（計 0 名）

1—6. 大学院生などの成果

1-6-1. 論文

	学会誌	紀要	講座等 機関誌	学術的 商業誌	論文集	計
人文学研究科	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	1(0)	0(0)
文学研究科	1(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
計	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)

括弧内は査読付き論文数。

1-6-2. 口頭発表

	国際学会	国内学会	研究会	自治体等 講演会	その他	計
人文学研究科	0	0	1	0	0	0
文学研究科	0	1	0	0	0	0
計	0	0	0	0	0	0

1-6-3. 業 績

(1)論 文 (査読、SCOPUS 論文掲載の有無)

【人文学研究科】

〔博士前期〕 なし

〔博士後期〕 なし

【文学研究科】

〔修士〕

城直子 「なぜヒンドゥー教徒の王が仏教徒の少女に跪くのか: 民族藝術の四つ辻 (フィールドワーク便り)」『民族藝術学会会報』
第 101 号, 民族藝術学会, p.3, 2023/3

(2)口頭発表

【人文学研究科】

〔博士前期〕 なし

〔博士後期〕 なし

【文学研究科】

〔修士〕

中村莉菜 「ミア・ハンセン＝ラヴ初期長編三作品における家の表象」, 第7回大阪大学大学院人文学研究科 若手研究者フォー
ラム, 大阪大学豊中キャンパス大会議室 (ハイブリッド), 2023/3/24

(3)その他(書評・翻訳など)

【人文学研究科】

〔博士前期〕 なし

〔博士後期〕 なし

【文学研究科】

〔修士〕

(批評取材) 2022 年 5 月 22 日 @ 小劇場楽園 (東京都下北沢) 日本スタンダップコメディ協会主催「スタンダップコメデ
ィ GO! vol.4」

(批評取材) 2022 年 7 月 18 日 @ 池林房 (東京都新宿) 日本スタンダップコメディ協会主催「スタンダップコメディ GO!」・「クロー
ジングセレモニー」(『スタンダップコメディ・フェスティバル』: 2022 年 7 月 12 日ー7 月 18 日)

1-6-4. 受 賞 (受賞者の氏名、賞の名前、授賞団体名、年度等)

中村 莉菜 若手研究者フォーラム奨励賞 2022 年度

1-6-5. 研究助成 (受託者の氏名、助成題目、助成団体名、年度等)

城 直子

助成題目:カトマンズ旧王宮関係者インタビュー、ガッディバイタク・クマリの館等の史料収集

助成団体名:ゆめ基金、大阪大学文学研究科、2022 年度

1-6-6. 課程博士および論文博士の授与件数

	課程博士	論文博士	計
人文学研究科	0	0	0
文学研究科	0	0	0
計	0	0	0

1-6-7. 博士論文の提出者、題目、審査教員等

【人文学研究科】なし

【文学研究科】なし

1-7. キャリア支援、進路

1-7-1. 進路（就職先など、数）

【文学研究科】

〔修士〕

就職						進学	その他	合計
研究職・専門職	民間企業	官公庁	教員	その他	計			
0	3	0	0	0	3	0	3	6

1-7-3. 専門分野出身の研究者

(大学院修了者・在籍者・学振特別研究員・研究生等で、在籍年度にかかわらず 2022 年度に大学・短大・高専の常勤職員として就職が決まった者)

【人文学研究科】なし

【文学研究科】なし

1-7-4. 専門分野出身の高度職業人

(2022 年度の大学院博士前期／後期課程中退・修了者で、システムエンジニア・プログラマー・通訳などの技術職、ジャーナリスト、アーティスト、中・高等学校の教員、その他の職業に就いた者について)

計 0 名

【人文学研究科】: 0 名

＜内訳＞ 技術職 0 名 ジャーナリスト 0 名 アーティスト 0 名 中・高等学校の教員 0 名
その他 0 名

【文学研究科】: 0 名

＜内訳＞ 技術職 0 名 ジャーナリスト 0 名 アーティスト 0 名 中・高等学校の教員 0 名
その他 0 名

Ⅱ. 研究の現況

2-1. 専門分野全体での研究活動の概要

【2022 年度】

著書、論文、国内外での研究発表、上映会やシンポジウムの企画など、「書物」「実践」とともに研究はますます順調に遂行されている。なおコース紀要『Arts&Media』については、2022 年 7 月に第 12 号を発刊した。

美術館における講演、上演・上映・展覧会企画等への企画参加や補助等、さまざまな社会連携活動を進めてきている。

2—2. 専門分野全体での研究活動

2-2-1. 学会・研究会・講演会・シンポジウム等の開催や事務局等の引き受け状況

なし

2-2-2. 専門分野主催の研究会等活動状況

なし

2-2-3. 地域連携による研究活動状況

なし

2-2-4. 刊行物

『Arts&Media』第 12 号、2022 年 7 月

2—3. 教員の研究活動

永田 靖 教授

1957 年生。1981 年上智大学外国語学部ロシア語学科年卒業、1988 年明治大学大学院文学研究科演劇学専攻博士課程単位取得退学。日本学術振興会特別研究員、明治大学人文科学研究所客員研究員、ロシア国立映画大学研究員、鳥取女子短期大学助教授、1996 年大阪大学文学部助教授、同大学院文学研究科助教授を経て、2002 年 4 月より同教授。2022 年 4 月より大阪大学大学院人文学研究科教授。（2023 年 3 月定年退職）専攻：演劇学

1. 論文

永田靖「公衆電話と独語の演劇」『Arts&Media』12, 大阪大学文学研究科文化動態論専攻アート・メディア論コース, pp. 151-154, 2022/7

2. 著書（単著・編著）

永田靖（共編著）『徴の上を鳥が飛ぶ』大阪大学出版会, 94p., 2023/3

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等（データベース、コーパス等の開発を含む）

なし

4. 口頭発表

永田靖「大学はいかに劇場となりうるか」, 最終講義「演劇と大学」, 大阪大学会館講堂, 2023/3/19

永田靖「現代大阪演劇－震災、コロナ禍、越境」西洋戯劇・課堂学術演講国立台北藝術大学, 2023/3/9

Nagata Yasushi “Some Trends of Contemporary Theatres in Osaka” Korean National University of Arts, Drama School, 2022/10/5

永田靖（招待講演）「スタニスラフスキー再考－演劇教育の観点から」, 2022年度日本演劇学会研究集会『俳優教育の「時」と「場」』, 2022/10/1

5. 受賞歴(2022 年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

6-1. 2022 年度～2025 年度、基盤研究(B) 一般、代表者:永田靖

課題番号:22H00614

研究題目:アジア演劇の越境重層的研究と実践リサーチ型次世代ネットワークの構築

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

7-1. 2022 年度、5: その他補助金、助成金獲得者:永田靖

助成金名:大学における文化芸術推進事業

研究題目:中之島に鮠を放つ—大学博物館と共創するアート人材育成プログラム

助成団体名:文化庁

助成金額:直接経費 16,400,000 円

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員(国・自治体)等の引き受け状況

大阪府市文化振興会議・委員, 2020 年 4 月～現在に至る

公益財団法人吹田市文化振興事業団メイスアター・理事, 2015 年 5 月～現在に至る

豊中市文化審議会・委員, 2014 年 6 月～現在に至る

11. 外部役員等の引き受け状況

日本演劇学会・会長, 2015 年 6 月～2022 年 6 月

兵庫県立ピッコロ劇場企画運営委員会・委員(委員長), 2011 年 3 月～現在に至る

芸術学関連学会連合・委員, 2005 年 6 月～2022 年 6 月

International Federation for Theatre Research, Asian Theatre Working Group・Convener, 2008 年 7 月～現在に至る

園府寺 司 教授

1957 年生。大阪大学文学部美学科(西洋美術史)卒、アムステルダム大学美術史研究所大学院修了。Doctor der Letteren(文学博士・アムステルダム大学)。広島大学総合科学部講師・助教授、大阪大学文学部助教授、同教授を経て、2022 年 4 月より大阪大学大学院人文学研究科教授。(2023 年 3 月定年退職)。2004 年にワルシャワ・ユダヤ歴史博物館研究員。専攻:西洋美術史／アート・メディア論

1. 論文

なし

2. 著書（単著・編著）

圀府寺司『ファン・ゴッホ 生成変容史』三元社, 296 p., 2023/3

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等（データベース、コーパス等の開発を含む）

なし

4. 口頭発表

圀府寺司「ファン・ゴッホ生成変容史 一相続 作品伝播 美術市場 文化産業」, 第 75 回美術史学会大会, 美術史学会, 東京大学(ハイブリッド), 2022/5/22

5. 受賞歴(2022 年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

6-1. 2019 年度～2023 年度、基盤研究(A) 一般、代表者: 圀府寺司

課題番号: 19H00519

研究題目: 美術市場とその国際化に関する制度論的、交流史的研究。西洋から日本・アジアへの展開

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員（国・自治体）等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

国際美術史学会 CIHA・国内委員, 2009 年 4 月～現在に至る

文化庁・独国立美術館評価に係る有識者会合委員 2021 年 4 月～現在に至る

大阪中之島美術館アドバイザリーボード 2021 年 4 月～現在に至る

桑木野 幸司 教授

1975 年生。東京大学大学院工学系研究科修士課程修了（西洋建築史）。ピサ大学大学院博士課程修了。Dottore di Ricerca in Storia delle arti visive e dello spettacolo（文学博士（美術史）・ピサ大学）。Kunsthistorisches Institut in Florenz 研究生、2011 年 4 月より大阪大学文学研究科准教授を経て、2020 年 4 月より同教授。2022 年 4 月より大阪大学大学院人文学研究科教授。専攻：西洋美術・建築・庭園史

1. 論文

桑木野幸司「庭園と果物」『セミナーと研究報告「庭園／植物／公園」』, pp.1-13, 査読無, 2023/3/31

桑木野幸司「『自然という書物』の美麗なる挿絵:15-17 世紀の博物図譜の発展とヨーロッパの視覚文化」『自然という書物:15-19 世紀のナチュラール・ヒストリー&アート』, pp.6-15, 査読無, 2023/3/18

桑木野幸司「未来考究 CROSS TALK:大阪大学が考える「生きがい」を育む社会」とは？」『OU RESEARCH GAZETTE』第 1 巻, pp.1-10, 査読無, 2023/3/15

桑木野幸司「天翔ける苑:オルティ・ファルネジアーニの尚古・博物学的庭園」『web フランス』, 査読無, 2022/3/10
<https://webfrance.hakusuisha.co.jp/posts/7054>

桑木野幸司「ヴィッラ・マダーマ幻想:文人、建築家、エクフラシス」『web フランス』, 査読無, 2023/1/10
<https://webfrance.hakusuisha.co.jp/posts/6832>

桑木野幸司「宇宙誌としての建築——風の理想都市から星辰の花壇まで——」『ユリイカ』第 798 号, pp.175-184, 査読無, 2023/1/1

桑木野幸司「彫刻の中庭:古代をヴァーチャルに体験する空間」『白水社の本棚』, pp.10-11, 査読無, 2022/10/10

桑木野幸司「ルネサンス庭園と古典主義」『建築と古典主義』第 1 巻, pp.79-82, 査読無, 2022/9/5

桑木野幸司「デジタル・ヒューマニティーズの二〇歩手前」『Arts and Media』第 12 巻, pp.159-160, 査読無, 2022/7/31

桑木野幸司「眺めのいい部屋:ヴァティカン・ベルヴェデーレの中庭」『白水社の本棚』, pp.10-11, 査読無, 2022/7/10

桑木野幸司「ルネサンス 情報革命の時代」『ちくま新書』, pp.1-352, 査読無, 2022/5/11

桑木野幸司「風と楽の音につつまれたヴィッラ」『白水社の本棚』, pp.10-11, 査読無, 2022/4/10

2. 著書 (単著・編著)

桑木野幸司『ルネサンス 情報革命の時代』筑摩書房, 352p., 2022/5

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等 (データベース、コーパス等の開発を含む)

なし

4. 口頭発表

桑木野幸司「西洋建築史研究室・教育鼎談シリーズ 第五回」, 西洋建築史研究室・教育鼎談,加藤耕一研究室,東京大学大学院建築学専攻・工学部一号館(ハイブリッド), 2022/12/7

桑木野幸司「惑のイタリア・ルネサンス庭園—水の庭園ヴィッラ・ランテを中心に—」, 講演会,イタリア研究会,オンライン(オンライン), 2022/12/3

桑木野幸司「記憶術と忘却術:強すぎる精神イメージとの果て無き戦い」, 文献学の世界:書物と社会の記憶,極東証券寄付講座 春学期・水 2 限,慶應義塾大学・大学文学部(オンライン), 2022/6/15

5. 受賞歴(2022 年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

6-1. 2020 年度～2023 年度、基盤研究(B) 一般、代表者:桑木野幸司

課題番号:20H01208

研究題目:初期近代西欧の視覚芸術における多様性と発想:美術と修辞学の創造的共同

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員（国・自治体）等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

民族芸術学会・理事, 2020 年 4 月～現在に至る

地中海学会・事務局員, 2012 年 4 月～現在に至る

藤岡 穰 教授

1962 年生。東京芸術大学大学院修士課程修了。芸術学修士。大阪市立美術館学芸員、大阪大学大学院文学研究科助教授、同准教授を経て、2009 年 4 月より同教授。2022 年 4 月より大阪大学大学院人文学研究科 現職。1991 年に第 3 回国華賞、2014 年に大阪大学総長顕彰受賞。専攻：東洋美術史

1. 論文

藤岡穰「根津美術館所蔵「金銅鎚鍔五尊仏坐像」再考 附 根津美術館所蔵金銅仏の蛍光 X 線分析の結果と所見」『此君』第 14 号, pp.5-41, 査読無, 2023/3

藤岡穰「龍角寺薬師如来坐像の蛍光 X 線分析の結果について」『早稲田大学會津八一記念博物館研究紀要』第 24 号, pp. 81-85, 査読無, 2023/3

2. 著書（単著・編著）

なし

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等（データベース、コーパス等の開発を含む）

なし

4. 口頭発表

藤岡穰「仏像の基礎研究—蛍光 X 線による金銅仏の成分分析から AI による仏顔の様式分析へ—」, 国際シンポジウム「宗教遺産をめぐる真正性—宗教遺産テキスト学の発展的展開—」, 名古屋大学人文学研究科附属人類文化遺産テキスト学研究センター(オンライン), 2023/3/31

藤岡穰「阿弥陀二十五菩薩像と葛井寺」, 市指定有形文化財指定記念講演会, 葛井寺紫雲閣, 2022/11/13

Fujioka, Yutaka. “The Transmission and Creation of Miraculous Efficacy in the Early Kamakura-Period Reconstruction of Buddhist Statues at Kōfuku-ji Temple”, Workshop-Absence, Presence, and Materiality:Refiguring Japanese Religious Art and Culture(online), 2022/7/9

藤岡穰「隋～初唐の長安における仏教造像」, 令和 4 年度第 142 回懷徳堂春季講座「仏教が塗りかえる古代東アジア史像」, オンライン, 2022/6/25

藤岡穰「大阪市立美術館 1995 年特別展「中国の石仏」を振り返って」, 第 2 回仏教芸術学会連続講座, オンライン, 2022/6/11

5. 受賞歴(2022 年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

6-1. 2018 年度～2022 年度、基盤研究(A) 一般、代表者:藤岡穰

課題番号: 18H03571

研究課題: 3 次元データに基づく人工知能による仏顔の様式研究

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員(国・自治体)等の引き受け状況

藤井寺市文化財審議会・審議員, 2021 年 9 月～現在に至る

吹田市文化財保護審議会・委員, 2019 年 12 月～現在に至る

枚方市文化財保護審議会・委員, 2018 年 4 月～現在に至る

茨木市文化財審議会・委員, 2017 年 3 月～現在に至る

和歌山県文化財保護審議会・委員, 2012 年 4 月～現在に至る

八尾市文化財保護審議会・委員, 2009 年 9 月～現在に至る

奈良国立博物館買取等協議会・委員, 2022 年 9 月

11. 外部役員等の引き受け状況

美術史学会・西支部代表, 2021 年 6 月～2022 年 5 月

美術史学会・常任委員, 2022 年 6 月～現在に至る

仏教芸術学会・会長, 2019 年 1 月～現在に至る

摂津市史・執筆委員, 2015 年 4 月～現在に至る

神河町史編集委員会・委員, 2021 年 4 月～現在に至る

葛井寺文化遺産保存活用委員会・委員長, 2021 年 7 月～現在に至る

輪島 裕介 教授

1974 年生。東京大学大学院人文社会系研究科(美学芸術学)博士課程単位修得退学。博士(文学)。日本学術振興会特別研究員、国立音楽大学ほか非常勤講師、2011 年 4 月大阪大学文学研究科准教授、2021 年 4 月同教授を経て、2022 年 4 月より大学院人文学研究科教授。専攻: 音楽学

1. 論文

輪島裕介「笠置シヅ子と大阪」『東アジアにおける舞台性大衆娯楽のグローバル化を巡って』、立教大学アジア地域研究所, pp.

67-89, 招待有, 2023/3

輪島裕介「初期テレビアニメ主題歌の音、産業、思想:手塚・トリローから宙明へ」『待兼山論叢 芸術学篇』第 56 巻, 大阪大学
大学院文学研究科, pp. 1-26, 査読無, 2022/12

2. 著書 (単著・編著)

輪島裕介(共著), 永富真梨, 忠聡太 他,『ポピュラー音楽:「聴く」を広げる・更新する』フィルムアート社(全 254 頁), 担当範囲:
「ジャンル」, 2023/3

輪島裕介(共著), 細井直子,『移行する大衆演劇～人々の記憶の現像と制度の再建～論文集』立教大学アジア地域研究所,
2023/3

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等 (データベース、コーパス等の開発を含む)

輪島裕介(単訳), 阿部万里江(著)『ちんどん屋の響き:音が生み出す空間と社会的つながり』世界思想社, 279p, 2023/3

4. 口頭発表

輪島裕介「笠置シヅ子と大阪」国立台北芸術大学共催「2022 東アジア大衆演劇国際学術シンポジウム—グローバル化を巡っ
て」, 立教大学アジア地域研究所, 台湾・国立台北芸術大学(ハイブリッド), 2023/1

WAJIMA, Yusuke “The Discovery of “Japan” through the Geographic Imaginations of Enka: Reminiscing the Empire and
Incorporating “America””, International Association for the Study of Popular Music Biennial Conference, 2022/7

輪島裕介「北島三郎論:在地音楽として艶歌を再考する」嘉泉大学アジア文化研究所国際シンポジウム「トロットとエンカ:東アジ
アを越えて世界へ」, 2022/5

WAJIMA, Yusuke, “Mambo Boom in 1955: The Birth of Youth Subculture in Post-war Japan” Association for Asian Studies Anual
Conference, 2022

5. 受賞歴(2022 年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

6-1. 2019 年度～2023 年度、基盤研究(C) 一般、代表者:輪島裕介

課題番号:19K00220

研究題目:環太平洋・間アジア視点から近代日本大衆音楽史を読み直す

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員(国・自治体)等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

日本ポピュラー音楽学会・理事、研究活動委員長、2018 年 12 月～現在に至る

古後 奈緒子 准教授

1972 年生。2004 年大阪大学 文学研究科文化表現論（美学）修了、修士（文学）。京都造形芸術大学、大阪外国語大学、龍谷大学、神戸市外国語大学、奈良大学、神戸女学院大学等の非常勤講師、2014 年より大阪大学文学研究科助教、2017 年 4 月同准教授。2022 年 4 月より同大学院人文学研究科准教授。2001 年日本演劇批評家協会主催第 5 回「シアターアーツ賞」受賞。2001 年舞踊学会研究奨励賞。専攻：舞踊学

1. 論文

なし

2. 著書（単著・編著）

なし

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等（データベース、コーパス等の開発を含む）

古後奈緒子「インタビュー企画「コロナ禍と劇場舞踊」ー唐津絵理氏と大澤寅雄氏に聞くー」『舞踊学』第 45 巻, pp.13-27, 査読無, 2022/12

古後奈緒子（書評）「海外文献紹介 Ulf Otto. Das Theater der Elektrizität: Technologie und Spektakel im ausgehenden 19. Jahrhundert.」『舞踊学』第 45 巻, pp.18-18, 査読無, 2022/12

古後奈緒子（解説）「「人形たちの饗宴 II」人形たちの饗宴 II～人形を動かす魔法とは？～」『薄井憲二バレエ・コレクション第 30 回企画展 リーフレット』, pp.1-4, 査読無, 2022/12

古後奈緒子（解説）「場所／空間と居場所の多様性」『『徴しの上を鳥が飛ぶⅢ報告書』』第巻第号, pp.45-46, 査読無, 2022/12

4. 口頭発表

古後奈緒子「劇場の電化とバレリーナ: 19 世紀テクノロジーは誰の夢をかなえたのか」, 大人のアートタイム, 西宮市男女共同参画センターウェブ, 西宮市男女共同参画センター(対面), 2023/2/2

古後奈緒子「『エクセルシオール』のコレオグラフィーにおける静止と運動の美学」, 第 74 回舞踊学会大会, 舞踊学会, 聖心女子大学(対面), 2022/11/19

古後奈緒子「ウィーンの劇場の電化と宮廷バレエ 国際電気博覧会から『人形の精』まで」, 日本演劇学会 2022 年度秋の研究集会, 日本演劇学会, 日本大学芸術学部江古田校舎(対面), 2022/10/1

Kogo, Naoko, "Reenactment and documentation of performers liveness of Ishinha in Osaka as Performing Arts Museum", 33 rd SIBMAS Conference, the International Association of Libraries, Museums, Archives and Documentation Centres of the Performing Arts., Theatre Institut Warsaw(ハイブリッド), 2022/6/8

5. 受賞歴(2022 年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

なし

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

中之島に鮠を放つ「〈アートとその分身〉人間／人形の間」Aプロ「人形の精と踊る私」担当

10. 各種審議会委員（国・自治体）等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

大阪市 能 プロポーザル審査・審査員, 2022 年 6 月

日本芸術文化振興会・文化芸術活動調査員, 2018 年 5 月～2022 年度

東 志保 准教授

1979 年生。国際基督教大学比較文化研究科博士前期課程修了（比較文化論）。パリ第三大学映画視聴覚研究博士（Docteur en Cinéma et Audiovisuel）。国際基督教大学平和研究所助手、同大学非常勤講師、岩手大学非常勤講師、2017 年より大阪大学大学院文学研究科助教、2021 年 4 月より同准教授。2022 年 4 月より同大学院人文学研究科 現職。専攻：映像研究／比較文化論

1. 論文

東志保「エッセイ映画としての『無言日記』——個人的なマッピングから「世界の記憶」へ」『ユリイカ』第 54 巻第 14 号, pp.291-296, 査読無, 2022/12

2. 著書（単著・編著）

なし

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等（データベース、コーパス等の開発を含む）

東志保（新聞記事）「ゴダールとヌーヴェル・ヴァーグ「左岸派」の映画作家たち」、『西日本新聞』, pp.12-12, 2022/11

東志保「風景を凝視する映画の魅力」、『Arts and Media』, vol.12, pp.156-157,大阪大学人文学研究科アート・メディア論研究室, 2022/7

4. 口頭発表

東志保「移動撮影(Travelling)と繰り返しショット (Champs-contrechamps)の意味:『冬の旅』と『燃ゆる女の肖像』を例に」, フランス語大学, 2023/2/14

東志保「ゴダールとヌーヴェル・ヴァーグ左岸派」,『追悼上映 ジャン＝リュック・ゴダール監督特集』トークイベント,,KBC シネマ(), 2022/11/13

東志保「映像と音声の関係についての研究:記録と表現の間で」, 第 7 回大阪大学豊中地区研究交流会「知の共創」, 大阪大学 (ポスター発表), 2022/11/4

東志保「ドキュメンタリー映画における記憶の表象 :クリス・マルケル、アニエス・ヴァルダ、レイモン・ドゥパルドンを例に」京都大

学メディア合同研究室 第2回シンポジウム, 京都大学メディア合同研究室 第2回シンポジウム実行委員会, 京都大学吉田キャンパス(ハイブリッド), 2022/10

5. 受賞歴(2022年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

なし

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員(国・自治体)等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

日本映像学会関西支部・幹事, 2018年6月～現在に至る

鈴木 聖子 助教

1971年生。2012年、東京大学大学院人文科学研究科博士課程(文化資源学)単位取得退学。博士(文学)(東京大学、2014年)。パリ大学東アジア言語文化学部・助教、大阪大学大学院文学研究科音楽学研究室・助教を経て、2021年よりアート・メディア論・助教。2022年4月より同大学院人文学研究科 現職。専攻: 音楽芸能史・文化資源学

1. 論文

Suzuki, Seiko, "The Emergence of a Contemporary Repertoire for the Shō" *Circuit: Musiques Contemporaines* 第32巻第1号, pp.77-89, 査読有, 2022/5/1

2. 著書(単著・編著)

なし

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等(データベース、コーパス等の開発を含む)

鈴木聖子「『陶埴』(弥生時代の土笛)の制作・演奏・パフォーマンス」『大阪大学総合学術博物館叢書 徴しの上を鳥が飛ぶ』第20巻, pp.47-49, 査読無, 2023/3/31

鈴木聖子「放浪のサウンド・アーティスト ―芸能者としての鈴木昭男―」『Arts & Media』第12巻, pp.157-159, 査読無, 2022/7/31

4. 口頭発表

鈴木聖子「小沢昭一の LP『ドキュメント 日本の放浪芸』(1971 年)をめぐって:文化財保護制度の価値基準への異議申し立てとしての作品制作」, 音楽と映像の会, 杜こなて氏 (吉田耕一+長与寿恵子), オンライン, 2022/6/19

鈴木聖子「『放浪芸』の記録における聴覚と視覚」, 春季研究発表会, 日本サウンドスケープ協会 (オンライン), 2022/6/8

5. 受賞歴(2022 年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

6-1. 2020 年度～2022 年度、研究活動スタート支援、代表者:鈴木聖子

課題番号: 20K21931

研究題目:小沢昭一における音楽芸能の正統性の概念の研究:LP 作品集『日本の放浪芸』を中心に

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

令和 3 年7月～令和 4 年3月 「『陶埴』の制作・演奏・パフォーマンス」(サウンド・アーティスト鈴木昭男を迎えてのレクチャーとワークショップ)企画・講師、『微しの上を鳥が飛ぶ III』(文学研究科におけるアート人材育成プログラム、文化庁 大学における文化芸術推進事業)

令和4年7月～令和5年3月 「人形芝居を聴く」(能勢人形浄瑠璃鹿角座・社会福祉法人日本ライトハウス情報文化センターを迎えてのレクチャーとワークショップ)企画・講師、『中之島に鼬を放つ』(大阪大学中之島芸術センター、大阪大学大学院人文学研究科、大阪大学総合学術博物館共催アート人材育成プログラム、文化庁 大学における文化芸術推進事業)

令和5年2月 「ドキュメンタリー・レコードと『日本の放浪芸』、メイプル箕面市民講座・冬の生涯学習講座「音／音楽について考える」講師

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員（国・自治体）等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

なし

美学・文芸学

I. 教育活動の現況

1-1. 教育活動の概要

【2022 年度】

美学分野では、卒業論文に向けた演習において、個人発表にたいしてグループ討議の時間を設けたり、テーマの決めかたや論文の書き方についての学びの機会をつくったり、テキストを作成して使用したり、学習を深める様々な工夫を取り入れた。大学院では、書いてきた短い文章を相互にチェックしあうことに重点をおき、アカデミックな文章を書く力を伸ばそうとした。

文芸学研究室では、古代ギリシア語ならびにラテン語の教育に力を入れた。文学部の外国語科目にギリシア語とラテン語がなく、文学部において西洋の古典語を学ぶ機会が少なくなっている現状を考えると、当研究室が提供する古典語の教育はますます重要になると思われる。非常勤講師として勝又泰洋氏が授業を担当した。また、論文作成演習では、学部生・大学院生ともに研究発表の力を高めさせた。

1-2. 教員数・学生数

1-2-1. 教 員 (2022 年度 5 月現在)

教授 1 名 准教授 3 名 講師 1 名 助教 1 名

教 授：高安 啓介

准 教 授：渡辺 浩司、田中 均、東 志保

講 師：西井 奨

助 教：横道 仁志

1-2-2 在学生 (2022 年度 5 月現在)

【人文学研究科】		2022 年度の学生数					
		大学院 博士前期 (M)	大学院 博士後期 (D)	特別 研究学生	特別 聴講学生	科目等 履修生	大学院 研究生
総 数		2	0	0	0	0	0
留学生	国費	0	0	0	0	0	0
	私費	1	0	0	0	0	0

* うち留学生 1 名、社会人学生 1 名

【文学研究科】		2022 年度の学生数					
		大学院 博士前期 (M)	大学院 博士後期 (D)	特別 研究学生	特別 聴講学生	科目等 履修生	大学院 研究生
総 数		8	10	0	0	0	0
留学生	国費	0	1	0	0	0	0
	私費	3	2	0	0	0	0

*うち留学生 6 名、社会人学生 1 名

1-2-3 修了生 (2022 年度)

	大学院 博士前期(M)修了者	大学院 博士後期(D) 単位修得退学者	大学院 博士後期(D) 博士号学位取得者
人文学研究科			
文学研究科	4	1	0

1—3. 国際化

1-3-1 大学院生等の留学 (2022 年度)

【人文学研究科】 0 名

【文学研究科】 2 名

1-3-2 外国人研究者の受け入れ状況 (研究者名、国、所属先)

計 0 名

1—4. 地域連携

1-4-1 社会学連携、リカレント事業、地域連携事業一覧 (事業名・主催者・実施期間)

なし

1-4-2 市民向け講座・講演 (講座名・主催者・実施日)

なし

1—5. 大学院生・若手研究者などの支援

1-5-1 各種研究員の受入状況

【招へい研究員】

なし

【学術振興会特別研究員】 注) 3 年間など長期で採択した場合、毎年カウント

【人文学研究科】 DC1 : 0 名 DC2 : 0 名 PD : 0 名 RPD : 0 名 (計 0 名)

【文学研究科】 DC1 : 0 名 DC2 : 0 名 PD : 0 名 RPD : 0 名 (計 0 名)

1—6. 大学院生などの成果

1-6-1. 論文

	学会誌	紀要	講座等 機関誌	学術的 商業誌	論文集	計
人文学研究科	0(0)	1(0)	0(0)	0(0)	0(0)	1(0)
文学研究科	2(1)	2(0)	0(0)	0(0)	0(0)	4(1)
計	2(1)	3(0)	0(0)	0(0)	0(0)	5(1)

括弧内は査読付き論文数。

1-6-2. 口頭発表

	国際学会	国内学会	研究会	自治体等 講演会	その他	計
人文学研究科	0	0	0	0	0	0
文学研究科	0	2	0	0	0	2
計	0	2	0	0	0	2

1-6-3. 業 績

(1)論 文 (査読、SCOPUS 論文掲載の有無)

【人文学研究科】

〔博士前期〕 なし

〔博士後期〕 なし

【文学研究科】

〔博士前期〕 なし

〔博士後期〕

折居耕拓「反演劇性の伝統とタブロー—マイケル・フリードの絵画史観」『美学』第 73 巻第 1 号, pp.25-36,査読有,
2022/6/30

岡田弥生「ガンディー主義のテキスタイル—社会を変える非暴力の布」『a+a』第 14 号, pp.144-161,査読無, 2023/2/1

岡田弥生「ガンディーと粗さの美学—手紡ぎ布カーディンの肌触りをめぐって—」『待兼山論叢』第 56 号,査読無, 2022

(2)口頭発表

【人文学研究科】

〔博士前期〕 なし

〔博士後期〕 なし

【文学研究科】

〔博士前期〕 なし

〔博士後期〕

折居耕拓「マイケル・フリードとドイツ・ロマン主義—カスパー・ダーヴィト・フリードリッヒの絵画における「後ろ姿の人物像」を中心に」, 日本シェリング協会第 31 回学術大会,日本シェリング協会,大阪大学 (ハイブリッド), 2022/7/3
矢島由佳「江戸時代の茶道および香道に見られる花結びに用いられた花卉モチーフについての検討」, 第 249 回意匠学会研究例会,意匠学会,近畿大学 (オンライン), 2022/11/12

(3)その他(書評・翻訳など)

【人文学研究科】

〔博士前期〕 なし

〔博士後期〕 なし

【文学研究科】

〔博士前期〕 なし

〔博士後期〕

岡田弥生「【書評】上羽陽子・金谷美和編『躍動するインド世界の布』」『デザイン理論』第 80 号, pp.118-119,査読無,
2022/7/31

1-6-4. 受賞（受賞者の氏名、賞の名前、授賞団体名、年度等）

なし

1-6-5. 研究助成（受託者の氏名、助成題目、助成団体名、年度等）

なし

1-6-6. 課程博士および論文博士の授与件数

	課程博士	論文博士	計
人文学研究科	0	0	0
文学研究科	0	0	0
計	0	0	0

1-6-7. 博士論文の提出者、題目、審査教員等

【人文学研究科】なし

【文学研究科】なし

1-7. キャリア支援、進路

1-7-1. 進路（就職先など、数）

【文学研究科】

〔博士前期〕

就職						進学	その他	合計
研究職・専門職	民間企業	官公庁	教員	その他	計			
0	2	0	0	0	2	0	2	4

〔博士後期〕

就職						その他	合計
研究職・専門職	民間企業	官公庁	教員	その他	計		
0	1	0	0	0	1	0	1

1-7-3. 専門分野出身の研究者

（大学院修了者・在籍者・学振特別研究員・研究生等で、在籍年度にかかわらず 2022 年度に大学・短大・高専の常勤職員として就職が決まった者）

【人文学研究科】なし

【文学研究科】なし

1-7-4. 専門分野出身の高度職業人

（2022 年度の大学院博士前期／後期課程中退・修了者および学部卒業者で、システムエンジニア・プログラマー・通訳などの技術職、ジャーナリスト、アーティスト、中・高等学校の教員、その他の職業に就いた者について）

計 0 名

【人文学研究科】：0 名

＜内訳＞ 技術職 0 名 ジャーナリスト 0 名 アーティスト 0 名 中・高等学校の教員 0 名
その他 0 名

【文学研究科】：0 名

＜内訳＞ 技術職 0名 ジャーナリスト 0名 アーティスト 0名 中・高等学校の教員 0名
その他 0名

Ⅱ. 研究の現況

2—1. 専門分野全体での研究活動の概要

【2022 年度】

各教員の著書、論文等の刊行の実績、および科学研究費補助金の採択状況は、「V. 基本情報」の「12. 教員の研究活動」のとおりである。また大学院生の研究業績は、「2. 大学院生等による論文発表等」のとおりである。

美学研究室では、美学思想をめぐる多様な視点からの研究を進めている。高安教授は、デザイン評価の問題を歴史的・理論的に考察しており、Euroculture Lecture at the University of Groningen・第7回 ウィリアム・モリス研究会にて発表し、『a+a 美学研究』第14号に論考を発表した。田中准教授は、対話的・協働的な芸術実践の理論の研究を継続し、『a+a 美学研究』第14号に論考を発表した。東准教授は映画を対象とした表象研究を行い、京都大学メディア合同研究室 第2回シンポジウム・第7回大阪大学豊中地区研究交流会「知の共創」・『追悼上映 ジャン＝リュック・ゴダール監督特集』トークイベントで発表し、『ユリイカ』2022年12月号に論考を発表した。

文芸学研究室はギリシアとローマの文学・レトリックや神話を中心とする研究を行った。渡辺准教授はローマの弁論術を研究し、一昨年度のキケロー『トピカ』、昨年度のキケロー『弁論家』(1)の翻訳に引き続き、キケロー『弁論家』(2)の翻訳を『大阪大学大学院文学研究科紀要』第62号に発表した。西井講師は、ギリシア・ローマ神話の研究を進め、また伝記文学としても重要なヴァレリウス・マクスィムス『ギリシア・ローマ著名人言行録』の翻訳を進めると共に、美学会西部会第341回例会にて発表した。文芸学研究会では、機関誌として『文芸学研究』が順調に定期刊行されてきている。この研究会は本研究室を事務局兼活動母体としながらも、広く西日本の他大学の多くの研究者、学生とも連携したものであり、研究発表会を定期的に開催すると共に、機関誌を年1冊発行し、そのたびごとに合評会を催すなど、活発な活動を継続した。

教員の国際学会での発表は下記「教員の研究活動」のとおりである。

2—2. 専門分野全体での研究活動

2-2-1. 学会・研究会・講演会・シンポジウム等の開催や事務局等の引き受け状況

なし

2-2-2. 専門分野主催の研究会等活動状況

なし

2-2-3. 地域連携による研究活動状況

なし

2-2-4. 刊行物

なし

2—3. 教員の研究活動

高安 啓介 教授

1971年生。一橋大学社会学部卒業。大阪大学大学院文学研究科博士課程修了（芸術学）。博士（文学）。愛媛大学法文学部准教授、2016年4月より大阪大学文学研究科准教授を経て、2019年4月より同教授。2022年4月より大阪大学大学

院人文学研究科 現職。専攻：美学／芸術学

1. 論文

高安啓介「社会デザインの三つの段階」『a+a 美学研究』第 14 号, pp.90-119,査読無, 2023/2/1

高安啓介「他でもありうる未来ーデザインの想像力によせて」『a+a 美学研究』第 14 号, pp.10-29,査読無, 2023/2

2. 著書（単著・編著）

なし

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等（データベース、コーパス等の開発を含む）

なし

4. 口頭発表

高安啓介「社会デザインの起点としてのモリスの労働観」, 第7回 ウィリアム・モリス研究会, 意匠学会, 大阪大学(オンライン), 2022/12/17

Takayasu, Keisuke, “Design History in the Transcultural Context”, Euroculture Lecture ,Euroculture,University of Göttingen (対面), 2022/5/9

Takayasu, Keisuke, “Design History in the Transcultural Context”, Euroculture Lecture ,Euroculture, University of Groningen (対面), 2022/5/2

5. 受賞歴(2022 年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

6-1. 2020 年度～2022 年度、基盤研究(C) 一般、代表者:高安啓介

課題番号:20K12530

研究題目:社会デザインと批判デザインとの相互関係をめぐる歴史的展望

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員（国・自治体）等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

意匠学会・役員, 2017 年 4 月～現在に至る

美学会・委員, 2016 年 11 月～現在に至る

渡辺 浩司 准教授

1962 年生。大阪大学文学部卒業。大阪大学大学院文学研究科博士課程修了。博士（文学）。大阪大学助手、助教を経て2017 年 4 月より同准教授。2022 年 4 月より大阪大学大学院人文学研究科 現職。専攻：文芸学／西洋古典学

1. 論文

渡辺浩司「キケロー『弁論家』(2)」『文学研究科紀要』(大阪大学大学院文学研究科), 63, 大阪大学大学院文学研究科, pp. 97-114, 2023/3

2. 著書（単著・編著）

永田 靖, 山崎達哉, 渡辺浩司(共著)「「アート・マネジメント基礎講座」について」『微しの上を鳥が飛ぶ』, pp. 58-63, 2022/3

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等（データベース、コーパス等の開発を含む）

なし

4. 口頭発表

渡辺浩司「近代美学と古典弁論術」近代美学と古典弁論術」2022 年度第 1 回研究会, 2022/8

5. 受賞歴(2022 年度))

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

6-1. 2022 年度～2024 年度、基盤研究(C) 一般、代表者:渡辺浩司

課題番号:22K00124

研究題目:近代美学と古典弁論術—弁論術の崩壊と再構築

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員（国・自治体）等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

大阪大学生活共同組合・監事, 2019 年 5 月～現在に至る

民族藝術学会・理事, 2018 年 4 月～現在に至る

田中 均 准教授

1974 年生。東京大学大学院人文社会系研究科博士課程修了（美学芸術学、2007 年）。博士（文学）。日本学術振興会特別研究員（PD、2005 年～2008 年）、山口大学人文学部講師（2008 年～2011 年）、同准教授（2011 年～2012 年）。2012 年 4 月大阪大学大学院文学研究科准教授を経て、2022 年 4 月より同大学院人文学研究科 現職。大阪大学 CO デザインセンターに派遣（2016 年 4 月～2020 年 3 月）。日本シェリング協会第 7 回研究奨励賞（2011 年）。専攻：美学

1. 論文

田中均「過去の未来を呼び戻す「レトロタイプ」」『a+a 美学研究』第 14 号、大阪大学大学院文学研究科比較デザイン学クラスター、美学研究室 編、pp.30-44、査読無、2023/2

2. 著書（単著・編著）

田中均、山上浩嗣、津田 保夫、他(共著)『啓蒙思想の百科事典』丸善出版、pp. 550-553、2023/1/25

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等（データベース、コーパス等の開発を含む）

田中均(書評)「クリストフ・メンケ『力 美的人間学の根本概念』」『図書新聞』3569、pp. 3-3、2022/12/4

4. 口頭発表

田中均「シラーはライフスタイルの哲学者か？マザーン／リグルによる『美的教育書簡』再評価をめぐって」、日本シェリング協会 第 31 回学術大会、日本シェリング協会、大阪大学豊中キャンパス(ハイブリッド)、2022/7/2

5. 受賞歴(2022 年度)

田中均 日本シェリング協会第 7 回研究奨励賞、日本シェリング協会、2011/7

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

6-1. 2022 年度～2024 年度、基盤研究(C) 一般、代表者：田中均

課題番号:22K00142

研究題目:対話的・協働的芸術実践の美的価値についての基礎的研究

7. その他の外部資金の受け入れ状況

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員（国・自治体）等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

日本シェリング協会・理事、2008 年 10 月～現在に至る

東 志保 准教授

1979 年生。国際基督教大学比較文化研究科博士前期課程修了（比較文化論）。パリ第三大学映画視聴覚研究博士（Docteur en Cinéma et Audiovisuel）。国際基督教大学平和研究所助手、同大学非常勤講師、岩手大学非常勤講師、2017 年より大阪大学大学院文学研究科助教、2021 年 4 月同准教授。2022 年 4 月より同大学院人文学研究科 現職。専攻：映像研究／比較文化論

1. 論文

東志保 「エッセイ映画としての『無言日記』——個人的なマッピングから「世界の記憶」へ」『ユリイカ』第 54 巻第 14 号, pp.291-296, 査読無, 2022/12

2. 著書（単著・編著）

なし

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等（データベース、コーパス等の開発を含む）

東志保（新聞記事）「ゴダールとヌーヴェル・ヴァーグ「左岸派」の映画作家たち」、『西日本新聞』, pp.12-12, 2022/11

東志保 「風景を凝視する映画の魅力」、『Arts and Media』, vol.12, pp.156-157,大阪大学人文学研究科アート・メディア論研究室, 2022/7

4. 口頭発表

東志保 「移動撮影 (Travelling) と切り返しショット (Champs-contrechamps) の意味: 『冬の旅』と『燃ゆる女の肖像』を例に」, フランス語大学, 2023/2/14

東志保 「ゴダールとヌーヴェル・ヴァーグ左岸派」, 『追悼上映 ジャン＝リュック・ゴダール監督特集』トークイベント,,KBC シネマ(), 2022/11/13

東志保 「映像と音声の関係についての研究: 記録と表現の間で」, 第 7 回大阪大学豊中地区研究交流会「知の共創」, 大阪大学 (ポスター発表), 2022/11/4

東志保 「ドキュメンタリー映画 における記憶の表象 : クリス・マルケル、アニエス・ヴァルダ、レイモン・ドゥパルドンを例に」京都大学メディア合同研究室 第 2 回シンポジウム, 京都大学メディア合同研究室 第 2 回シンポジウム実行委員会, 京都大学吉田キャンパス(ハイブリッド), 2022/10

5. 受賞歴(2022 年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

なし

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員（国・自治体）等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

日本映像学会関西支部・幹事, 2018 年 6 月～現在に至る

西井 奨 講師

1982 年生。京都大学大学院文学研究科博士課程修了。博士（文学）。日本学術振興会特別研究員 PD を経て、2015 年 11 月より大阪大学文学研究科特任講師を経て、2018 年 4 月より同講師。2022 年 4 月より大阪大学大学院人文学研究科 現職。専攻：文芸学／西洋古典学

1. 論文

西井奨「高橋宏幸先生のラテン文学研究から学んだこと」『西洋古典論集』26, pp. 8-10, 2022/2

2. 著書（単著・編著）

西井奨(共著)『ルキアノス 遊女たちの対話 全集 8』京都大学学術出版, pp. 3-39, 225-230, 2021/12

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等（データベース、コーパス等の開発を含む）

西井奨(WEB)「訳者からのメッセージ:ルキアノス『遊女たちの対話』」, 日本西洋古典学会 HP 新刊書フォーラム, <https://clsoc.jp/agora/newbooks/2022/220106.html>, 2022/1/06

西井奨(WEB)「文芸学での学びと研究」『フロムページ 夢ナビ』, <https://yumenavi.info/vue/lecture.html?gnkcd=g012622#>, 2023/3/20

4. 口頭発表

西井奨 ウアレリウス・マクスィムス『著名言行録』における弁論術と美德」美学会西部会第 341 回例会, 大阪大学, 2022/12/3

5. 受賞歴(2022 年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

なし

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員（国・自治体）等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

ギリシア・ローマ神話学研究会・編集代表, 2016 年 10 月～現在に至る

横道 仁志 助教

2021 年 4 月より大阪大学大学院文学研究科 助教を経て、2022 年 4 月より同大学院人文学研究科 現職。専攻:美学

1. 論文

なし

2. 著書（単著・編著）

なし

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等（データベース、コーパス等の開発を含む）

なし

4. 口頭発表

横道仁志 「楽園の花——フェデリコ・フェリーニ『道』における人間本性と罪の問題——」広島芸術学会 第 36 回大会, 広島芸術学会, 広島大学(オンライン), 2022/9/11

横道仁志 「メイヤスーVS アガンベン——相関主義の側からの思弁実在論の検証」日本シェリング協会 第 31 回学術大会, 日本シェリング協会, 大阪大学(ハイブリッド), 2022/7/3

5. 受賞歴(2022 年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

なし

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

【研究会等の活動】

「疫病と芸術」, 芸術学関連学会連合 第 16 回シンポジウム, 芸術学関連学会連合(オンライン), 2022/6/11

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員（国・自治体）等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

なし

音 楽 学 ・ 演 劇 学

I. 教育活動の現況

1-1. 教育活動の概要

【2022 年度】

2022 年度はほぼコロナ禍の影響から脱した。2020 年 4 月よりオンライン、またはオンライン併用のハイブリッド型の授業が主たる形態となっており、教育の中心となる各種演習の授業は、次第にオンラインによる発表、議論といったやり方が確立し、ある程度の成果をあげていたが、2019 年度以前のやり方を主たる形態とするように戻りつつ、オンラインや、オンライン併用のハイブリッド型の授業も適宜用いた。卒業論文、修士論文、博士論文の主題、研究手法、論文構成などについての指導、討論はこれまで通り行われ、各種フィールドワークなども、再開できるようになった。インターンシップに関しては、音楽学で大学院生 1 件のみ実施できた。

1-2. 教員数・学生数

1-2-1. 教 員 (2022 年度 5 月現在)

教授 3 名 准教授 2 名 (兼任 1) 講師 0 名 助教 1 名 (兼任 1)

教 授：永田 靖、伊東 信宏、輪島 裕介
准 教 授：中尾 薫、古後奈緒子 (兼任)
助 教：横田 洋 (兼任)

1-2-2 在学生 (2022 年度 5 月現在)

【人文学研究科】		2022 年度の学生数					
		大学院 博士前期 (M)	大学院 博士後期 (D)	特別 研究学生	特別 聴講学生	科目等 履修生	大学院 研究生
総 数		7	4	2	0	5	2
留学生	国費	1	2	0	0	0	2
	私費	1	0	0	1	0	0

*うち留学生 7 名、社会人学生 2 名

【文学研究科】		2022 年度の学生数					
		大学院 博士前期 (M)	大学院 博士後期 (D)	特別 研究学生	特別 聴講学生	科目等 履修生	大学院 研究生
総 数		4	23	0	0	3	0
留学生	国費	0	0	0	0	0	0
	私費	2	7	0	0	0	0

*うち留学生 9 名、社会人学生 4 名

1-2-3 修了生 (2022 年度)

	大学院 博士前期(M)修了者	大学院 博士後期(D) 単位修得退学者	大学院 博士後期(D) 博士号学位取得者
人文学研究科			
文学研究科	3	4	3

1—3. 国際化

1-3-1 大学院生等の留学（2022 年度）

【人文学研究科】 0 名

【文学研究科】 0 名

1-3-2 外国人研究者の受け入れ状況（研究者名、国、所属先）

計 0 名

1—4. 地域連携

1-4-1 社会学連携、リカレント事業、地域連携事業一覧（事業名・主催者・実施期間）

なし

1-4-2 市民向け講座・講演（講座名・主催者・実施日）

なし

1—5. 大学院生・若手研究者などの支援

1-5-1 各種研究員の受入状況

【招へい研究員】

なし

【学術振興会特別研究員】 注）3 年間など長期で採択した場合、毎年カウント

【人文学研究科】 DC1：0 名 DC2：0 名 PD：0 名 RPD：0 名（計 0 名）

【文学研究科】 DC1：0 名 DC2：0 名 PD：0 名 RPD：0 名（計 0 名）

1—6. 大学院生などの成果

1-6-1. 論文

	学会誌	紀要	講座等 機関誌	学術的 商業誌	論文集	計
人文学研究科	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
文学研究科	2(2)	5(0)	2(2)	0(0)	0(0)	9(4)
計	2(2)	5(0)	2(2)	0(0)	0(0)	9(4)

括弧内は査読付き論文数。

1-6-2. 口頭発表

	国際学会	国内学会	研究会	自治体等 講演会	その他	計
人文学研究科	1	2	0	0	0	3
文学研究科	7	1	5	2	0	15
計	8	3	5	2	0	18

1-6-3. 業 績

(1) 論 文 (査読、SCOPUS 論文掲載の有無)

【人文学研究科】

〔博士前期〕 なし

〔博士後期〕 なし

【文学研究科】

〔博士前期〕 なし

〔博士後期〕

張佳能 「リバイバル・ブーム」考:昭和 30 年代の音楽シーンに着目して』『ポピュラー音楽研究』第 26 号, pp.63-78, 査読有,
2022/12/1

張佳能, 三島郁 『四季』の移り変わるが如く:日本の「バロック・ブーム」と大衆化する「バロック」音楽』『阪大音楽学報』第 19 巻,
pp.75-95, 査読有, 2023/3/1

吉村汐七 「デジタル化による同期演奏の変化—MIDI 規格と DX7 の影響—」『阪大音楽学報』第 19 巻, pp.123-143, 査読有,
2023/3/1

杉本亘 「能の中の逢坂」『文論—日本文学研究ジャーナル』第 9 号, ハイデルベルク大学(オンライン), 2022/12/30

瀧尻浩士 「メタシアターとしての喜劇『サンシャイン・ボーイズ』」『フィロカリア』第 40 号, 大阪大学大学院人文学研究科芸術学・芸
術史講座, pp.75-93, 2023/3/18

馮縁 「宝塚少女歌劇における中国戯曲の翻案—歌劇『琵琶記』を中心に—」『待兼山論叢』第 56 号, 大阪大学文学部, pp.49-71,
2022/12/26

井上美佳 「デルサル表情システムの日本における受容—2代目市川左団次と白井規矩郎の受容の軌跡から—」『岩国短期大学
紀要』第 51 号, pp.11-21, 2023/3/1

井上美佳 「基礎教養科目の効果の測定・評価に関する研究—学習成果のデータ収集・分析を含んだ PDCA サイクルによる自己
点検・評価—」『岩国短期大学紀要』第 51 号「子ども未来保育研究報告」, 共著, pp.47-57, 2023/3/1

湯書華 「江戸期における中国戯曲の翻訳—嵐翠子『填詞胡蝶夢』について—」『日本中国学会報』第 74 集, 日本中国学会,
pp.176-189, 査読有, 2022/10/9

(2) 口頭発表

【人文学研究科】

〔博士前期〕 なし

〔博士後期〕

孫長熙 「1980 年前後の日本における韓国歌謡ブーム:「釜山港へ帰れ」の事例を中心に」, 日本ポピュラー音楽学会第 34 回
次大会, オンライン, 2022/12/18

アニータ・ドレックスラー 「地方から再考するニューミュージック:さだまさしと中島みゆきにおける反メトロポリス性」, 日本ポピュラー
音楽学会第 34 回大会, 東京芸術大学千住キャンパス, 2022/12/18

Anita Drexler “Omoikiri American: US-Americanisms in ‘City pop’ and the Struggle for Cultural Identity”, International
Association for the Study of Popular Music (IASPM XXI 2022), online, 8/25/2022.

村瀬公美子 「きょうの音—音・人・場の関係を探る」, 日本文化研究所主催, 京都産業大学, 2022/12/3

Iryna KASTYLIANCHANKA “Translation Cultural Identities, or Staging Shakespeare in Contemporary Japanese Theatre”, Found in Translation: Understanding Shakespeare through Intercultural Dialogue, 早稲田大学, 2022/9/18

Iryna KASTYLIANCHANKA “Mask as a Tool for De-Contextualization in Contemporary Staging of Shakespeare” The 10th International Asian Theatre Studies Online Conference, オンライン, 2022/11/5

Iryna KASTYLIANCHANKA, “Protest and Theatre: Belarus 2020”, Performing Global Crises Conference 2022, オタゴ大学(ニュージーランド), 2022/12/1

岡田登貴 「下間少進『叢伝抄』 秋田家本・関西大学本と鴻山文庫本の比較」六麓会 12 月例会, オンライン, 2022/12/29

瀧尻浩士 「メタシアターとしての『サンシャイン・ボーイズ』」, 近現代演劇研究会 7 月例会, 大阪大学, 2022/7/30

瀧尻浩士 “Another Memory Play: Concerning Neil Simon’s Brighton Beach Memoirs”, The 10th International Asian Theatre Studies Online Conference, オンライン, 2022/11/5

馮縁 「宝塚少女歌劇における中国戯曲の翻案—歌劇『琵琶記』を中心に—」, 近現代演劇研究会 3・5 月合同例会, 大阪大学, 2022/5/14

温彬 「楽以成人と清明象天一荀子楽教思想における二つの側面—」シンポジウム「教化・教養・教育を—芸術の機能を考える—」, 民族芸術学会第167回例会、大阪大学, 2023/2/11

湯書華 「飛鳥井雅有の紀行と蹴鞠: 東宮への思いをめぐって」国際研究集会「〈紀行〉研究の新展開」, オンライン, 2023/2/22

湯書華 「十三世紀蹴鞠書における「序破急」: その形成過程と意味」, 芸能史研究会例会, オンライン, 2023/3/10

【文学研究科】

〔博士前期〕 なし

〔博士後期〕

Canon Zhang, “Rethinking Tairiku Songs in the History of Japanese Popular Music”, International Association for the Study of Popular Music 2022 Conference, 2022/7/6

張佳能 「一本道・一枚岩・一筋縄ではない大衆音楽史」, 細川周平『近代日本の音楽百年』合評会, 日本ポピュラー音楽学会 2022 年度第 3 回例会, 2022/7/10

張佳能 「トークイベント “昭和歌謡”研究のいま」, 大阪音楽大学ミュージックカフェ(共催: アートエリア B1), 2022/8/3

杉山恵梨 「古楽の源泉: 20 世紀におけるバロック時代以前の作品演奏をめぐって」, 伊丹市主催若手研究者による教養講座, 兵庫(いたみホール), 2022/11/5

(3)その他(書評・翻訳など)

【人文学研究科】

〔博士前期〕

菊池虎太郎 「野外音楽フェスティバル「GREENJAM'22」」『大阪日日新聞』, 2022/10/18

大久保真由 「国立文楽劇場企画展「文字で見る文楽の世界」」『大阪日日新聞』, 2022/12/20

芝田純平 「観客の緊張解く、安堵のほほ笑み『坂東玉三郎特別公演《東海道四谷怪談》《元禄花見踊》』」, 大阪日日新聞, 2022/10/4

森本綾乃 「劇場包む情報のバリアフリー—手話裁判劇『テロ』」, 大阪日日新聞, 2022/11/1

〔博士後期〕

アニータ・ドレックスラー、「個人研究発表 A2-3」, 『JASPM NEWSLETTER #132』, p.12., 2023/3

Anita Drexler, “Refresh your Ears: Unusual Kinds of Love in Japanese Retro-Pop Songs”, Wasshoi! Magazine, Interdisciplinary Magazine on Japan #4, pp.98-109, 査読有, 8/2022.

Anita Drexler, „Rezension zum Sammelband Sprachlich-literarische »Aggregatzustände« im Japanischen: Europäische Japan-Diskurse 1998-2018“, MINIKOMI: Austrian Journal of Japanese Studies (89), pp. 90-96, 査読有, 2022/6

村瀬公美子 「ガムランコンサート「花のみち」」『大阪日日新聞』, 2022/11/15

星川彩 「ヤポネシアン・カフェ・バー《八文字屋》」『大阪日日新聞』, 2023/3/21

【文学研究科】

〔博士前期〕

波多野珠喜「現代日本にも通じる普及の名作」, 大阪日日新聞, 2022/7/5

〔博士後期〕

張佳能「ミュージックカフェ「古楽って新しい!？」 馥郁たる「古楽」の薫り 緻密な構成で分かりやすく」『大阪日日新聞』, 2022/7/19

杉山恵梨「『メトロポリタン美術館展』で来日した《音楽家たち》」『大阪日日新聞』, 2022/4/19

杉本亘「MOU 収蔵品展—創立からもう 20 年—」一部展示及び展示解説(「曾我廼家十吾」), 会期:2022/10/24-2022/12/17

杉本亘「笑い通じて、平和の尊さ伝える「笑う門には福来・る祭」明治座でどうな・る家康」, 大阪日日新聞, 2023/2/7

岡田登貴「能楽師の不屈の挑戦『第 15 回面白能楽館《犀龍小太郎》」, 大阪日日新聞, 2022/9/6

岡田登貴「観劇実習レポート『硝子の動物園』(令和四年一月一八日・梅田芸術劇場シアター・ドラマシティ)」、「演劇学論叢」第 22 号, 大阪大学大学院人文学研究科演劇学研究室, pp.238-239, 2023/3/30

瀧尻浩士「現代のコロナ禍と重なるナゾの病—ピッコロ劇団第 72 回公演『脚気にしやがれ!』」, 大阪日日新聞, 2022/5/3

瀧尻浩士「ロマンスとスウィングで、心はいつもハッピーエンド『今夜、ロマンス劇場で』『FULL SWING!』, 『宝塚イズム 45』, 青弓社, 2022/7/1

瀧尻浩士「人生の真実を追い続けた男と真風涼帆と私たちの、「いま」の物語『NEVER SAY GOODBYE』, 『宝塚イズム 45』, 青弓社, 2022/7/1

瀧尻浩士「魔窟潜入—リアルとバーチャルの間で揺れ動く劇場空間 — ヨーロッパ企画第 40 回公演『九十九龍城』, 『ACT』32 号, 国際演劇評論家協会(AICT)日本センター関西支部, 2022/8/1

瀧尻浩士「剛の真風と柔の芹香、奇跡のバディ」, 『宝塚イズム46』, 青弓社, 2023/1/13

瀧尻浩士「特選! 宝塚発日帰りツアー — SWORD 地区とイタリアを巡る旅『HiGH&LOW - THE PREQUEL』『Capricciosa!!』, 『宝塚イズム46』, 青弓社, 2023/1/13

瀧尻浩士「昨日に向かって撃て! 令和日本の『サンシャイン・ボーイズ』加藤健一事務所公演 vol.107」, 『Act』33 号, 国際演劇評論家協会(AICT)日本センター関西支部, 2023/1/31

瀧尻浩士「観劇実習レポート 大槻文蔵三番能:狂言『無布施経』、復曲能『菅丞相』, 『演劇学論叢』第 22 号、大阪大学大学院文学研究科演劇学研究室, pp.236-238, 2023/3/30

柏木純子「日本女性の死はなにを解放するのか—ノイマルクト劇場&市原佐都子/Q『Madama Butterfly』, 『Act』33 号, 国際演劇評論家協会(AICT)関西支部, 2023/1/31

新井静「アーサー・ミラー『みんな我が子』 見だし・壁で表現する「空間と対立」, 大阪日日新聞, 2022/8/22

湯書華「元禄謡本による人情と仏縁 京都観世会 4 月例会『元禄本ニヨル高野物狂』, 大阪日日新聞, 2022/6/7

1-6-4. 受賞 (受賞者の氏名、賞の名前、授賞団体名、年度等)

Iryna KASTYLIANCHANKA Best Paper Award, The 10th International Asian Theatre Studies Online Conference, オンライン, 2022/11/5

1-6-5. 研究助成 (受託者の氏名、助成題目、助成団体名、年度等)

なし

1-6-6. 課程博士および論文博士の授与件数

	課程博士	論文博士	計
人文学研究科	0	0	0
文学研究科	3	0	3

計	3	0	3
---	---	---	---

1-6-7. 博士論文の提出者、題目、審査教員等

【人文学研究科】なし

【文学研究科】

藤下由香里、『同人音楽の文化誌—ヒトの創造性とモノの媒介性をもたらすつながりの体験—』

主査：輪島裕介、副査：伊東信宏、中尾薫、谷口文和

張佳能『さすらう大陸歌謡—昭和期の大衆音楽に関する貫戦史的研究—』

主査：輪島裕介、副査：伊東信宏、永田靖、渡辺裕

金潤貞、『太田省吾の初期作品研究—沈黙劇の発端と展開をめぐって—』

主査：永田靖、副査：渡辺浩司、中尾薫、古後奈緒子

1-7. キャリア支援、進路

1-7-1. 進路（就職先など、数）

【文学研究科】

〔博士前期〕

就職						進学	その他	合計
研究職・専門職	民間企業	官公庁	教員	その他	計			
0	1	0	1	0	2	0	1	3

〔博士後期〕

就職						その他	合計
研究職・専門職	民間企業	官公庁	教員	その他	計		
0	1	0	5	0	6	0	6

1-7-3. 専門分野出身の研究者

（大学院修了者・在籍者・学振特別研究員・研究生等で、在籍年度にかかわらず 2022 年度に大学・短大・高専の常勤職員として就職が決まった者）

【人文学研究科】なし

【文学研究科】なし

1-7-4. 専門分野出身の高度職業人

（2022 年度の大学院博士前期／後期課程中退・修了者で、システムエンジニア・プログラマー・通訳などの技術職、ジャーナリスト、アーティスト、中・高等学校の教員、その他の職業に就いた者について）

計 1 名

【人文学研究科】：0 名

＜内訳＞ 技術職 0 名 ジャーナリスト 0 名 アーティスト 0 名 中・高等学校の教員 0 名
その他 0 名

【文学研究科】：1 名

＜内訳＞ 技術職 0 名 ジャーナリスト 0 名 アーティスト 0 名 中・高等学校の教員 1 名
その他 0 名

Ⅱ. 研究の現況

2—1. 専門分野全体での研究活動の概要

音楽学研究室では、コロナ禍で活動しにくい時期ではあったが、それぞれに著書、論文、訳書などを刊行しており、順調に成果を挙げている。国内外の学会での発表、基調講演、報告なども活発に行なっている。教員 4 名による著書、論文、博物館展覧会図録などが刊行され、学界で高く評価された。また両研究室教員の多くは、科学研究費での助成研究を続けている。さらに院生は国内外の多くの学会での発表、および学会誌ないし研究書への掲載を実現した。

演劇学研究室では、2022 年 11 月 5 日～6 日には、The 10th IATS conference 2022, Theatricality and Audience in Contemporary Theatre に大学院生 2 名が口頭発表を行った。

また音楽学研究室の教員は、民族藝術学会、日本ポピュラー音楽学会の委員、理事などとしての活動を続けており、学会活動の拠点としての存在感を示している。演劇学研究室の教員も、日本演劇学会、日本演劇学会分科会近現代演劇研究会、IFTR 国際演劇学会、民族藝術学会、能楽学会、藝能史研究会などの会長、事務局、WG 代表、理事、常任幹事、委員を務めるなど、積極的な活動を行っている。教員、招へい研究員、大学院生による科学研究費、民間の財団への研究費の申請も毎年おこなっており、とりわけ院生の日本学術振興会特別研究員採択については、近年着実に成果があがっている。文化庁「大学における文化芸術推進事業」など、人文学研究科がかかわる大型資金においても各教員は事業推進者として中心的な役割を果たし、学内外でさまざまな公演やイベントを開催した。さらに演劇学研究室が刊行する『演劇学論叢』22 号（2022 年度）は永田靖教授退職記念号として出版された。

2—2. 専門分野全体での研究活動

2-2-1. 学会・研究会・講演会・シンポジウム等の開催や事務局等の引き受け状況

なし

2-2-2. 専門分野主催の研究会等活動状況

なし

2-2-3. 地域連携による研究活動状況

なし

2-2-4. 刊行物

『演劇学論叢』22 号（2022 年度）

2—3. 教員の研究活動

永田 靖 教授

1957 年生。1981 年上智大学外国語学部ロシア語学科卒業、1988 年明治大学大学院文学研究科演劇学専攻博士課程単位取得退学。日本学術振興会特別研究員、明治大学人文科学研究所客員研究員、ロシア国立映画大学研究員、鳥取女子短期大学助教授、1996 年大阪大学文学部助教授、同大学院文学研究科助教授を経て、2002 年 4 月より同教授。2022 年 4 月より大阪大学大学院人文学研究科教授。（2023 年 3 月定年退職）専攻：演劇学

1. 論文

永田靖「公衆電話と独語の演劇」『Arts&Media』12, 大阪大学文学研究科文化動態論専攻アート・メディア論コース, pp. 151-154, 2022/7

2. 著書（単著・編著）

永田靖（共編著）『微の上を鳥が飛ぶ』大阪大学出版会, 94p., 2023/3

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等（データベース、コーパス等の開発を含む）

なし

4. 口頭発表

永田靖「大学はいかに劇場となりうるか」, 最終講義「演劇と大学」, 大阪大学会館講堂, 2023/3/19

永田靖「現代大阪演劇－震災、コロナ禍、越境」西洋戯劇・課堂学術演講国立台北藝術大学, 2023/3/9

Nagata Yasushi “Some Trends of Contemporary Theatres in Osaka” Korean National University of Arts, Drama School, 2022/10/5

永田靖（招待講演）「スタニスラフスキー再考－演劇教育の観点から」, 2022年度日本演劇学会研究集会『俳優教育の「時」と「場」』, 2022/10/1

5. 受賞歴(2022 年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

6-1. 2022 年度～2025 年度、基盤研究(B) 一般、代表者:永田靖

課題番号:22H00614

研究題目:アジア演劇の越境重層的研究と実践リサーチ型次世代ネットワークの構築

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

7-1. 2022 年度、5：その他補助金、助成金獲得者:永田靖

助成金名:大学における文化芸術推進事業

研究題目:中之島に鮠を放つー大学博物館と共創するアート人材育成プログラム

助成団体名:文化庁

助成金額:直接経費 16,400,000 円

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員（国・自治体）等の引き受け状況

大阪府市文化振興会議・委員, 2020 年 4 月～現在に至る

公益財団法人吹田市文化振興事業団メイシアター・理事, 2015 年 5 月～現在に至る

豊中市文化審議会・委員, 2014 年 6 月～現在に至る

11. 外部役員等の引き受け状況

日本演劇学会・会長, 2015 年 6 月～2022 年 6 月

兵庫県立ピッコロ劇場企画運営委員会・委員(委員長), 2011 年 3 月～現在に至る

芸術学関連学会連合・委員, 2005 年 6 月～2022 年 6 月

伊東 信宏 教授

1960 年、京都市生まれ。大阪大学文学部美学科（音楽学）卒業。同大学院修了。博士（文学）。日本学術振興会特別研究員、リスト音楽院（ハンガリー）客員研究員などを経て、1993 年、大阪教育大学助教授。2004 年大阪大学助教授、准教授、2010 年 4 月同教授を経て、2022 年 4 月より同大学院人文学研究科 現職。専攻：音楽学

1. 論文

伊東信宏「演奏会のバックステージから」博物館叢書『微の上を鳥が飛ぶ』、大阪大学出版会, pp.12-15, 2023/3

2. 著書（単著・編著）

なし

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等（データベース、コーパス等の開発を含む）

伊東信宏「西へ東へ 伊東信宏×片山杜秀 往復書簡⑩」『レコード芸術』2023 年 4 月号, 音楽之友社, pp.208-209, 2023/3

伊東信宏「曲目解説」(ベートーヴェン: ヴァイオリン・ソナタ第7、9番、シェーンベルク: 幻想曲など、コパチンスカヤ&アホネン演奏会, ザ・フェニックスホール, 2023/3

伊東信宏「コパチンスカヤに振り落とされないために」水戸芸術館『Vivo』254 号, 2023/2

伊東信宏「ニコラ・アルトシュテット」トッパンホール広報誌, 2023/2

伊東信宏「西へ東へ 伊東信宏×片山杜秀 往復書簡⑩」『レコード芸術』2023 年 2 月号, 音楽之友社, pp.210-211, 2023/1

伊東信宏「ベッカ・クーシスト」(朝日新聞、2023 年 1 月 26 日夕刊)

伊東信宏「曲目解説」(シュニツケ: mozArt a la Haydn、プロコフィエフ: 交響曲第1番「古典」ほか) 神戸市立室内合奏団定期演奏会解説書, 2022/12

伊東信宏「曲目解説」(コダーイ: 『ハーリ・ヤーノシュ』組曲、バルトーク: 『青ひげ公の城』) 広島交響楽団第 427 回定期演奏会, 2022/12

伊東信宏「関西フィル第 333 回定期演奏会 エメリヤニチェフ、前田妃奈」(朝日新聞大阪版、2022 年 12 月 15 日夕刊)

伊東信宏「颯爽と厳粛の間: リゲティとコパチンスカヤに」『東京都響広報誌』、2022/12

伊東信宏「西へ東へ 伊東信宏×片山杜秀 往復書簡⑩」『レコード芸術』2022 年 12 月号, 音楽之友社, pp.240-241, 2022/11

伊東信宏「パトリツィア・コパチンスカヤ・インタビュー」ザ・フェニックスホール、トッパンホールの機関誌、HP に掲載, 2022/11

伊東信宏「藤井園子先生のバッハ」『演奏会プログラム』、2022/11

伊東信宏「西へ東へ 伊東信宏×片山杜秀 往復書簡⑩」『レコード芸術』2022 年 10 月号, 音楽之友社, pp.204-205, 2022/9

伊東信宏「ギドン・クレーメル・インタビュー」『レコード芸術』2022 年 9 月号, pp.9-13, 2022/8

伊東信宏「西へ東へ 伊東信宏×片山杜秀 往復書簡⑧」『レコード芸術』2022 年 8 月号, 音楽之友社, pp.220-221, 2022/7

伊東信宏「ウクライナの音楽」『レコード芸術』2022 年 8 月号, pp.20-21, 2022/7

伊東信宏「ロト&ケルンギェルツェニヒ ブルックナー交響曲第4番ほか」(朝日新聞、2022 年 7 月 21 日夕刊)

伊東信宏「西へ東へ 伊東信宏×片山杜秀 往復書簡⑥」『レコード芸術』2022 年 6 月号, 音楽之友社, pp.224-225, 2022/6

伊東信宏「ピアニスト ラドゥ・ルブーさんを悼む」(朝日新聞) 2022 年 5 月 1 日夕刊

伊東信宏 CD 『ジョージ・アンタイルの見た世界』解説訳, pp.2-6, 2022/04

4. 口頭発表

伊東信宏 アーデル音楽講座『月に憑かれたピエロ』を観る」大阪歴史博物館講堂, 2022/5

伊東信宏 街なかトークカフェ「イッサーリスからたどる「ロシア音楽」」(神奈川県立音楽堂, 2022/8

伊東信宏 アーデル音楽講座「北欧の二人のヴァイオリン弾き:シベリウスとニールセン」大阪歴史博物館講, 2022/9

伊東信宏 アーデル音楽講座「ストラヴィンスキー『結婚』を巡って」大阪歴史博物館講堂, 2022/11

伊東信宏 アーデル音楽講座「オーボエと世界のダブルリード楽器」大阪歴史博物館講堂, 2023/2

伊東信宏 中欧音楽夜話「モーツァルトの音楽をめぐって」箕面メイプルホール, 2023/2-3(3回)

伊東信宏 ONCC 懐徳堂記念会協力講座「シューベルトの連作歌曲集『美しい水車小屋の娘』について」豊中市民文化芸術センター, 2023/2 月

伊東信宏「ハイドンの現在」箕面市生涯学習講座, 2022/3

5. 受賞歴(2022 年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

6-1. 2018 年度～2023 年度、 国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(B))、代表者:伊東信宏

課題番号:18KK0002

研究題目:東欧の音楽文化に関する民俗学的調査と編曲作品研究

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

音楽学コロキウム「ポップとフォークの間」(キース・ニーガス教授(ロンドン大ゴールドスミス校)、イヴァ・ネニッチ博士(ベオグラード芸術大学准教授)などを招聘しての国際会議, 大阪大学会館アセンブリーホール, 2023/2/24

講演会「コパチンスカヤとアホネンが語り、少しだけ弾いてくれるかもしれない」大阪大学会館講堂(企画・制作・司会, パトリツィア・コパチンスカヤ(Vn)とヨナーヌ・アホネン(Pf)を招いての公演と試演, 2023/3/16

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員(国・自治体)等の引き受け状況

日本芸術文化振興会の評価等に関する有識者会議・委員, 2018 年 4 月～現在に至る

朝日新聞音楽懇話会・委員, 2000 年 4 月～現在に至る

サントリー芸術財団、サントリー音楽賞・佐治敬三賞選考委員, 2000 年 6 月～現在に至る

11. 外部役員等の引き受け状況

民族芸術学会・理事, 2008 年 4 月～現在に至る

日本室内楽振興財団調査研究事業委員会委員, 2020 年 4 月月～現在に至る

輪島 裕介 教授

1974 年生。東京大学大学院人文社会系研究科(美学芸術学)博士課程単位修得退学。博士(文学)。日本学術振興会特別研究員、国立音楽大学ほか非常勤講師、2011 年 4 月大阪大学文学研究科准教授、2021 年 4 月同教授を経て、2022 年 4 月より大学院人文学研究科教授。専攻:音楽学

1. 論文

輪島裕介「笠置シヅ子と大阪」『東アジアにおける舞台性大衆娯楽のグローバル化を巡って』、立教大学アジア地域研究所, pp. 67-89, 招待有, 2023/3

輪島裕介「初期テレビアニメ主題歌の音、産業、思想:手塚・トリローから宙明へ」『待兼山論叢 芸術学篇』第 56 巻, 大阪大学大学院文学研究科, pp. 1-26, 査読無, 2022/12

2. 著書 (単著・編著)

輪島裕介(共著), 永富真梨, 忠聡太 他,『ポピュラー音楽 : 「聴く」を広げる・更新する』フィルムアート社(全 254 頁), 担当範囲: 「ジャンル」, 2023/3

輪島裕介(共著), 細井直子,『移行する大衆演劇〜人々の記憶の現像と制度の再建〜論文集』立教大学アジア地域研究所, 2023/3

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等 (データベース、コーパス等の開発を含む)

輪島裕介(単訳), 阿部万里江(著)『ちんどん屋の響き : 音が生み出す空間と社会的つながり』世界思想社, 279p, 2023/3

4. 口頭発表

輪島裕介「笠置シヅ子と大阪」国立台北芸術大学共催「2022 東アジア大衆演劇国際学術シンポジウム—グローバル化を巡って」, 立教大学アジア地域研究所, 台湾・国立台北芸術大学(ハイブリッド), 2023/1

WAJIMA, Yusuke “The Discovery of “Japan” through the Geographic Imaginations of Enka: Reminiscing the Empire and Incorporating “America””, International Association for the Study of Popular Music Biennial Conference, 2022/7

輪島裕介「北島三郎論:在地音楽として艶歌を再考する」嘉泉大学アジア文化研究所国際シンポジウム「トロットとエンカ:東アジアを越えて世界へ」, 2022/5

WAJIMA, Yusuke, “Mambo Boom in 1955: The Birth of Youth Subculture in Post-war Japan” Association for Asian Studies Annual Conference, 2022

5. 受賞歴(2022 年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

6-1. 2019 年度～2023 年度、基盤研究(C) 一般、代表者:輪島裕介
課題番号:19K00220
研究題目:環太平洋・間アジア視点から近代日本大衆音楽史を読み直す

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員 (国・自治体) 等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

日本ポピュラー音楽学会・理事、研究活動委員長, 2018 年 12 月～現在に至る

中尾 薫 准教授

1978 年生。2001 年、奈良女子大学文学部言語文化学科日本アジア言語文化学卒業、2008 年、大阪大学大学院文学研究科（演劇学）博士後期課程修了。博士（文学）。2009 年、早稲田大学坪内博士記念演劇博物館助手。2011 年、大阪大学大学院文学研究科専任講師、2014 年 4 月同准教授。2022 年 4 月より同大学院人文学研究科 現職。専攻：演劇学、能楽研究。

1. 論文

中尾薫「日本統治下台湾における新演劇興行の実態—明治三十八年台南座蜻蛉会の芝居番付より—」『大阪大学大学院文学研究科紀要』第 63 巻, pp.149-197, 査読無, 2023/2

中尾薫「能《高砂》における名所・旧跡—世阿弥の作劇法に照らして—」『文論』第 9 号, pp.1-19, 査読無, 2022/12

2. 著書（単著・編著）

乙女文楽研究会 編著／林 公子, 後藤 静夫, 中尾薫他(共編)『乙女文楽：開花から現在まで：近代大阪に生まれた女性—人遣いの人形浄瑠璃』大阪大学出版会, 107p., pp. 54-64,75-84, 2023/3

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等（データベース、コーパス等の開発を含む）

中尾薫(書評)「藝能史の書棚「野村伸一・竹内光浩・保立道久編『能楽の源流を東アジアに問う—多田富雄『望恨歌』から世阿弥以前へ—』」『藝能史研究』第 240 巻, pp. 35-36, 2023/1

中尾薫「能に描かれる住吉の神」『住吉大社社報『住吉っさん』第 39 号, pp. 23-26, 2022/12/15

中尾薫(巻頭)「観世元章相伝作物図十四—賀茂 御神体矢立台」『観世』第 89 巻第 3 号, 2022/5/1

4. 口頭発表

中尾薫「寺子屋にみる教養としての謡文化」, 民族藝術学会第 167 回研究例会 シンポジウム「教化・教養・教育—芸術の機能を考える—」, 民族藝術学会, 大阪大学(ハイブリッド), 2023/2/11

中尾薫「日本統治下台湾における演劇興行—高松豊次郎参入以前の劇場における新演劇興行の動向を中心に—」日本植民地研究会 2022 年度秋季研究会, 2022/11

5. 受賞歴(2022 年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

6-1. 2018 年度～2022 年度、基盤研究(C) 一般、代表者:中尾薫

課題番号:18K00234

研究題目:日本統治下の台湾における歌舞伎・浄瑠璃史の構築—現地資料に基づく基礎研究と考察—

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員（国・自治体）等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

若狭能倉座の神事能調査委員会・若狭能倉座の神事能調査委員, 2021 年 4 月～現在に至る

日本演劇学会・理事, 2020 年 7 月～現在に至る

能楽学会・常任委員, 2018 年 6 月～現在に至る

民族芸術学会・理事, 2018 年 4 月～現在に至る

芸能史研究会・委員, 2017 年 6 月～現在に至る

古後 奈緒子 准教授

1972 年生。2004 年大阪大学 文学研究科文化表現論（美学）修了、修士（文学）。京都造形芸術大学、大阪外国語大学、龍谷大学、神戸市外国語大学、奈良大学、神戸女学院大学等の非常勤講師、2014 年より大阪大学文学研究科助教、2017 年 4 月同准教授。2022 年 4 月より同大学院人文学研究科准教授。2001 年日本演劇批評家協会主催第 5 回「シアターアーツ賞」受賞。2001 年舞踊学会研究奨励賞。専攻：舞踊学

1. 論文

なし

2. 著書（単著・編著）

なし

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等（データベース、コーパス等の開発を含む）

古後奈緒子 「インタビュー企画「コロナ禍と劇場舞踊」ー唐津絵理氏と大澤寅雄氏に聞くー」『舞踊學』第 45 巻, pp.13-27, 査読無, 2022/12

古後奈緒子（書評）「海外文献紹介 Ulf Otto. Das Theater der Elektrizität: Technologie und Spektakel im ausgehenden 19. Jahrhundert.」『舞踊學』第 45 巻, pp.18-18, 査読無, 2022/12

古後奈緒子（解説）「人形たちの饗宴Ⅱ」人形たちの饗宴Ⅱ～人形を動かす魔法とは？～『薄井憲二バレエ・コレクション第 30 回企画展 リーフレット』, pp.1-4, 査読無, 2022/12

古後奈緒子（解説）「場所／空間と居場所の多様性」『『徴しの上を鳥が飛ぶⅢ報告書』』第巻第号, pp.45-46, 査読無, 2022/12

4. 口頭発表

古後奈緒子 「劇場の電化とバレリーナ: 19 世紀テクノロジーは誰の夢をかなえたのか」, 大人のアートタイム, 西宮市男女共同参

画センターウェブ、西宮市男女共同参画センター(対面), 2023/2/2

古後奈緒子 「『エクセルシオール』のコレオグラフィーにおける静止と運動の美学」, 第 74 回舞踊学会大会, 舞踊学会, 聖心女子大学(対面), 2022/11/19

古後奈緒子 「ウィーンの劇場の電化と宮廷バレエ 国際電気博覧会から『人形の精』まで」, 日本演劇学会 2022 年度秋の研究集会, 日本演劇学会, 日本大学芸術学部江古田校舎(対面), 2022/10/1

Kogo, Naoko, “Reenactment and documentation of performers liveness of Ishinha in Osaka as Performing Arts Museum”, 33 rd SIBMAS Conference, the International Association of Libraries, Museums, Archives and Documentation Centres of the Performing Arts., Theatre Institut Warsaw(ハイブリッド), 2022/6/8

5. 受賞歴(2022 年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

なし

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

中之島に鮠を放つ「〈アートとその分身〉人間／人形の間」Aプロ「人形の精と踊る私」担当

10. 各種審議会委員（国・自治体）等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

大阪市 能 プロポーザル審査・審査員, 2022 年 6 月

日本芸術文化振興会・文化芸術活動調査員, 2018 年 5 月～2022 年度

横田 洋 助教

1976 年生まれ。大阪大学大学院文学研究科博士後期課程修了。博士（文学）。2008 年、大阪大学総合学術博物館研究支援推進員。2011 年、大阪大学総合学術博物館助教。

1. 論文

横田 洋 「演劇と展覧会—大阪大学総合学術博物館の取り組みについて—」『演劇学論叢』第 22 号, pp.159–173, 2023/3

2. 著書（単著・編著）

乙女文楽研究会 編著／林 公子, 後藤 静夫, 横田 洋他(共編) 『乙女文楽：開花から現在まで：近代大阪に生まれた女性一人遣いの人形浄瑠璃』大阪大学出版会, 107p., pp.8–16, 2023/3

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等（データベース、コーパス等の開発を含む）

横田 洋 「岐路の風景 昭和初期に大阪で開花「乙女文楽」」 毎日新聞夕刊大阪本社，2022/10/1

4. 口頭発表

横田 洋「大阪大学総合学術博物館 20 年の歩み」大阪大学総合学術博物館 20 周年記念シンポジウム，大阪大学豊中キャンパス，
2022/10/29

5. 受賞歴(2022 年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

なし

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員（国・自治体）等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

なし

日本東洋美術史・西洋美術史

I. 教育活動の現況

1-1. 教育活動の概要

【2022 年度】

目標に定めた通りの美術史の講義、演習を開講し、十分な教育効果をあげた。また、全学教育推進機構における教育に協力し、2022 年度には 3 セメ分の授業を担当した。

日本・東洋美術史においては、伝統の授業である見学演習を継続し、美術史学の基礎となる作品の観察、記述能力の育成に効果をあげた。大学院生には、科研に関わる、あるいは博物館、地方自治体が実施する作品調査、種々の研究会への参加を促すとともに、教員が監修・編集を担当する研究書において論文投稿の機会を提供するなど所期の目標を達成した。西洋美術史においては、学部レベルでは論文を読むための授業が定着し、ゼミにおける研究発表、質疑応答を通じて、大学院、学部ともに論文作成にいたる過程を着実に定着させた。この間 3 名（前回データ）が欧米に留学し、高度な語学力を養いつつ、本格的な実地調査、研究を行うとともに、大学院授業を受けている。

なお、非常勤講師については、2022 年度は浮世絵（浅野秀剛・大和文華館館長）、写真史（竹内万里子・京都芸術大学教授）、西洋近代絵画（山上紀子・継続）の専門家をお招きし、専任教員ではカバーができない範囲の、そして最も先進的な研究についての講義を提供し、大きな教育効果をあげた。

1-2. 教員数・学生数

1-2-1. 教 員（2022 年度 5 月現在）

教授 5 名（兼任 1） 准教授 1 名 講師 0 名 助教 1 名

教 授：圀府寺 司、橋爪 節也（兼任）、藤岡 穰、岡田 裕成、桑木野幸司

准 教 授：門脇むつみ

助 教：河内 華子

1-2-2 在学生（2022 年度 5 月現在）

【人文学研究科】		2022 年度の学生数					
		大学院 博士前期 (M)	大学院 博士後期 (D)	特別 研究学生	特別 聴講学生	科目等 履修生	大学院 研究生
総 数		3	4	0	0	0	1
留学生	国費	0	0	0	0	0	0
	私費	0	0	0	0	0	1

* うち留学生 1 名、社会人学生 0 名

【文学研究科】		2022 年度の学生数					
		大学院 博士前期 (M)	大学院 博士後期 (D)	特別 研究学生	特別 聴講学生	科目等 履修生	大学院 研究生
総 数		12	17	0	0	1	0

留学生	国費	0	0	0	0	0	0
	私費	1	4	0	0	0	0

*うち留学生 5 名、社会人学生 3 名

1-2-3 修了生 (2022 年度)

	大学院 博士前期(M)修了者	大学院 博士後期(D) 単位修得退学者	大学院 博士後期(D) 博士号学位取得者
人文学研究科			
文学研究科	11	5	0

1—3. 国際化

1-3-1 大学院生等の留学 (2022 年度)

【人文学研究科】 0 名

【文学研究科】 0 名

1-3-2 外国人研究者の受け入れ状況 (研究者名、国、所属先)

計 0 名

1—4. 地域連携

1-4-1 社学連携、リカレント事業、地域連携事業一覧 (事業名・主催者・実施期間)

なし

1-4-2 市民向け講座・講演 (講座名・主催者・実施日)

なし

1—5. 大学院生・若手研究者などの支援

1-5-1 各種研究員の受入状況

【招へい研究員】

加藤瑞穂

Daniel Paul Borengasser

Rachel Quist

Wang Yingxue

【学術振興会特別研究員】 注) 3 年間など長期で採択した場合、毎年カウント

【人文学研究科】 DC1 : 0 名 DC2 : 0 名 PD : 0 名 RPD : 0 名 (計 0 名)

【文学研究科】 DC1 : 1 名 DC2 : 0 名 PD : 0 名 RPD : 0 名 (計 1 名)

1—6. 大学院生などの成果

1-6-1. 論文

	学会誌	紀要	講座等 機関誌	学術的 商業誌	論文集	計
人文学研究科	0(0)	0(0)	0(0)	1(0)	2(0)	3(0)
文学研究科	1(1)	1(1)	0(0)	0(0)	2(1)	4(3)
計	1(1)	1(1)	0(0)	1(0)	4(1)	7(3)

括弧内は査読付き論文数。

1-6-2. 口頭発表

	国際学会	国内学会	研究会	自治体等 講演会	その他	計
人文学研究科	0	3	0	0	2	5
文学研究科	1	5	0	0	0	6
計	1	8	0	0	2	11

1-6-3. 業 績

(1)論 文 (査読、SCOPUS 論文掲載の有無)

【人文学研究科】

〔博士前期〕

杉ノ原朋加「円山四条派の〈波上群仙図〉について」『第6回若手研究者フォーラム要旨集』, pp. 39-42, 査読無, 2023/3/24
町田大悟「旧醍醐寺蔵如意輪観音半跏像について」『第7回若手研究者フォーラム要旨集』, pp. 27-31, 査読無, 2022/9/14

〔博士後期〕

【文学研究科】

〔博士前期〕

原田直輝「近世武家社会における名物茶碗とその写しー徳川美術館蔵「三島茶碗 銘 藤袴」とその写しを例にー」『第7回若手研究者フォーラム要旨集』, pp.43-46, 査読無, 2023/3/24

〔博士後期〕

佐藤優「金光明最勝王經金字宝塔曼荼羅図の再検討」『仏教芸術』第9号, pp.33-57, 査読有, 2022/9/30

中井夏帆「作品解説「十一面観音菩薩像（長谷寺蔵）」ほか」『観音のいます地 三輪と初瀬』展覧会図録』, pp.16-16, 査読無, 2022/4/29

中北優香「シケイロスの壁画《ブルジョアジーの肖像》ーカルデナス政権による社会派芸術への検閲をめぐってー」『フイロカリア』第40号, pp.27-53, 査読有, 2023/3

キム・ウチャン「開港期朝鮮における明洞大聖堂の立地問題ー在朝鮮フランス公使コラン・ド・ブランシーの関与をめぐって」『arts/』第39巻, pp.83-94, 査読有, 2023/3/31

(2)口頭発表

【人文学研究科】

〔博士前期〕

杉ノ原朋加「円山四条派の〈波上群仙図〉について」, 第7回若手研究者フォーラム, 大阪大学人文学研究科, 大阪大学（ハイブリッド）, 2023/3/24

町田大悟「旧醍醐寺蔵如意輪観音半跏像について」, 第6回若手研究者フォーラム, 大阪大学人文学研究科, 大阪大学（ハイブリッド）, 2022/9/14

平阪 由貴「ニコライ・ゲー〈真理とは何か〉の受容に関する考察」, 若手研究者フォーラム, 大阪大学人文学研究科, 大阪大学（ハイブリッド）, 2023/3/24

〔博士後期〕

飯田花織「大正期の京都画壇におけるフレスコ画及びジョット作品の受容 ―土田麦僊《春》（講談社野間記念館蔵）を中心に―」, 美術史学会西支部例会,美術史学会,京都大学（オンライン）, 2022/7/16

【文学研究科】

〔博士前期〕

柘植健生「東京藝術大学神将像の彫刻史的意義―梁代神将像の伝播に関する検討を通じて―」, 第75回美術史学会全国大会,美術史学会,東京大学（オンライン）, 2022/5/20

原田直輝「近世武家社会における名物茶碗とその写し―徳川美術館蔵「三島茶碗 銘 藤袴」とその写しを例に―」, 第7回若手研究者フォーラム,大阪大学人文学研究科,大阪大学（ハイブリッド）, 2023/3/24

〔博士後期〕

都築茉莉「フリーア美術館所蔵「聖徳太子・二童子像」について」, 美術史学会西支部例会,美術史学会,大阪大学（ハイブリッド）, 2022/9/27

Shibao Mayo, The Subversion of Male Hegemony in Pipilotti Rist's Representation of Women, International Exchange in the Age of Society 5.0 : An Interdisciplinary Seminar for Young Scholars, 大阪大学, 2022/10/26

乾健一「1970 年大阪万博と前衛美術―万博といかに関わるか、前衛の分岐点―」, アシヤアートプロジェクト「GUTAI というなにか」,AAP アシヤアートプロジェクト実行委員会,芦屋市民会館 大ホール(ルナ・ホール) (対面), 2023/3/21

柴尾 万葉「ピピロッティ・リストの表現に関する一考察―エクリチュール・フェミニンとの類似性を中心に―」, 若手研究者フォーラム,大阪大学人文学研究科,大阪大学, 2023/3/24

(3)その他(書評・翻訳など)

【人文学研究科】

〔博士前期〕 なし

〔博士後期〕 なし

【文学研究科】

〔博士前期〕 なし

〔博士後期〕 なし

1-6-4. 受賞（受賞者の氏名、賞の名前、授賞団体名、年度等）

なし

1-6-5. 研究助成（受託者の氏名、助成題目、助成団体名、年度等）

房攸娥 日本学術振興会特別研究員(DC1)

五十嵐美憂 大阪大学「学際融合を推進し社会実装を担う次世代挑戦的研究者育成プロジェクト」

1-6-6. 課程博士および論文博士の授与件数

	課程博士	論文博士	計
人文学研究科	0	0	0
文学研究科	0	0	0
計	0	0	0

1-6-7. 博士論文の提出者、題目、審査教員等

【人文学研究科】 なし

【文学研究科】 なし

1-7. キャリア支援、進路

1-7-1. 進路（就職先など、数）

【文学研究科】

〔博士前期〕

就職						進学	その他	合計
研究職・専門職	民間企業	官公庁	教員	その他	計			
4	4	0	2	0	10	7	0	11

〔博士後期〕

就職						その他	合計
研究職・専門職	民間企業	官公庁	教員	その他	計		
3	0	0	1	0	4	1	5

1-7-3. 専門分野出身の研究者

(大学院修了者・在籍者・学振特別研究員・研究生等で、在籍年度にかかわらず 2022 年度に大学・短大・高専の常勤職員として就職が決まった者)

【人文学研究科】なし

【文学研究科】なし

1-7-4. 専門分野出身の高度職業人

(2022 年度の大学院博士前期／後期課程中退・修了者で、システムエンジニア・プログラマー・通訳などの技術職、ジャーナリスト、アーティスト、中・高等学校の教員、その他の職業に就いた者について)

計 1 名

【人文学研究科】：0 名

＜内訳＞ 技術職 0 名 ジャーナリスト 0 名 アーティスト 0 名 中・高等学校の教員 0 名
その他 0 名

【文学研究科】：1 名

＜内訳＞ 技術職 0 名 ジャーナリスト 0 名 アーティスト 0 名 中・高等学校の教員 1 名
その他 0 名

Ⅱ. 研究の現況

2-1. 専門分野全体での研究活動の概要

【2022 年度】

各教員とも、著書、論文、作品解説等をおよそ目標通り、あるいは目標以上に発表することができた。また、5 人の専任教員が科学研究費の助成を受け、当該の研究を推進した(2 人が基盤研究(A)、2 人が基盤研究(B)、1 人が基盤研究(C)の研究代表者)。なお、この間、美術史学会常任委員、美術史学会西支部事務局長、民族藝術学会理事(副会長)、仏教芸術学会会長などの役職をつとめ、学会の運営にも協力した。

博士後期課程の学生は論文等 3 件、口頭発表 4 件、加えて博士前期課程の学生も論文等 5 件、口頭発表 5 件と、美術史学の専門分野の大学院として、めざましい研究成果を挙げることができた。

2-2. 専門分野全体での研究活動

2-2-1. 学会・研究会・講演会・シンポジウム等の開催や事務局等の引き受け状況

仏教芸術学会 事務局
絵入本学会本学会主催校

2-2-2. 専門分野主催の研究会等活動状況

なし

2-2-3. 地域連携による研究活動状況

なし

2-2-4. 刊行物

なし

2-3. 教員の研究活動

圀府寺 司 教授

1957 年生。大阪大学文学部美学科（西洋美術史）卒、アムステルダム大学美術史研究所大学院修了。Doctor der Letteren（文学博士・アムステルダム大学）。広島大学総合科学部講師・助教授、大阪大学文学部助教授、同教授を経て、2022 年 4 月より大阪大学大学院人文学研究科教授。（2023 年 3 月定年退職）。2004 年にワルシャワ・ユダヤ歴史博物館研究員。専攻：西洋美術史／アート・メディア論

1. 論文

なし

2. 著書（単著・編著）

圀府寺司『ファン・ゴッホ 生成変容史』三元社, 296 p., 2023/3

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等（データベース、コーパス等の開発を含む）

なし

4. 口頭発表

圀府寺司「ファン・ゴッホ生成変容史 一相続 作品伝播 美術市場 文化産業」, 第 75 回美術史学会大会, 美術史学会, 東京大学(ハイブリッド), 2022/5/22

5. 受賞歴(2022 年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

6-1. 2019 年度～2023 年度、基盤研究(A) 一般、代表者: 圀府寺司

課題番号: 19H00519

研究題目: 美術市場とその国際化に関する制度論的、交流史的研究。西洋から日本・アジアへの展開

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員（国・自治体）等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

国際美術史学会 CIHA・国内委員, 2009 年 4 月～現在に至る

文化庁・独法国立美術館評価に係る有識者会合委員 2021 年 4 月～現在に至る

大阪中之島美術館アドバイザーボード 2021 年 4 月～現在に至る

橋爪 節也 教授

1958 年生。東京芸術大学大学院修士課程修了。芸術学修士。東京芸術大学美術学部附属古美術研究施設助手、大阪市立近代美術館（仮称）建設準備室主任学芸員。2013 年大阪大学総合学術博物館教授。（2023 年 3 月定年退職）専攻：日本美術史／近世近代絵画史

1. 論文

橋爪節也「“なにわ舟遊 ODYSSEY”で目指したもの エコ・ミュージアムを探るアートの旅」『大阪大学総合学術博物館叢書 徴の上を鳥が飛ぶ』, 大阪大学出版会, 2023/3

2. 著書（単著・編著）

なし

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等（データベース、コーパス等の開発を含む）

橋爪節也「こんなにおもしろいユニバーシティミュージアム—その可能性を探る—」武庫川女子大学附属総合ミュージアム『武庫川女子大学附属総合ミュージアム紀要・年報』3 号, 開設一周年記念シンポジウム大学ミュージアムと文化財—教育と研究の成果を活用する—, 2023/3

橋爪節也「万博遺産 第 8 回ローマ商業神、万国博に飛来す。——街角に跳躍するメルクリウス像」大阪ガス エネルギー・文化研究所『CEL』132, 大阪ガス エネルギー・文化研究所, 2023/3

橋爪節也「万博遺産 第 7 回 as time goes by……タイムカプセルの中にカプセルがもう一つ」大阪ガス エネルギー・文化研究所『CEL』131, 大阪ガス エネルギー・文化研究所, 2022/9

橋爪節也「新おおさか KEY わーど第 33 回「送迎自動車でダンス・パレスへ 南地ゆかりの“ほりとらさん”も登場」」大阪市生涯学習センター『いちよう並木』476, 大阪市生涯学習センター, p. 3, 2023/3

橋爪節也「新おおさか KEY わーど第 32 回「“文楽”に挑む。—古典芸能とアートのコラボレーション—」」大阪市生涯学習センター『いちよう並木』475, 大阪市生涯学習センター, p. 3, 2023/2

橋爪節也「新おおさか KEY わーど第 31 回「浄瑠璃から歌舞伎、落語へ 忠臣蔵も大阪人の手で面白い話に」」大阪市生涯学習センター『いちよう並木』474(12 月・1 月合併号), 大阪市生涯学習センター, p. 3, 2022/12

橋爪節也「新おおさか KEY わーど第 30 回「埋め立てられ、姿を消した後も 川は様々な物語に連なっていく」」大阪市生涯学習

センター『いちよう並木』473, 大阪市生涯学習センター, p. 3, 2022/11

橋爪節也「新おおさか KEY わーど第 29 回「西照菴は夕日の名所 遠くに天保山と、超巨大なみおつくし」」大阪市生涯学習センター『いちよう並木』472, 大阪市生涯学習センター, p. 3, 2022/10

橋爪節也「新おおさか KEY わーど第 28 回「夏祭り再開にあつまる若者たち どのように大阪を未来へ伝えるだろう」」大阪市生涯学習センター『いちよう並木』471, 大阪市生涯学習センター, p. 3, 2022/9

橋爪節也「新おおさか KEY わーど第 27 回「むかしより何回この橋を渡ったことか 愛すべき心斎橋の再発見」」大阪市生涯学習センター『いちよう並木』470, 大阪市生涯学習センター, p. 3, 2022/8

橋爪節也「新おおさか KEY わーど第 26 回「大阪人の橋梁愛はハンドメイド 夢の浮橋、組み立てはたいへんですが・・・」」大阪市生涯学習センター『いちよう並木』469, 大阪市生涯学習センター, p. 3, 2022/7

橋爪節也「新おおさか KEY わーど第 25 回「展覧会での実験もおもしろく 文化芸術発信拠点・中之島を探る」」大阪市生涯学習センター『いちよう並木』468, 大阪市生涯学習センター, p. 3, 2022/6

橋爪節也「新おおさか KEY わーど第 24 回「大阪文化を濃縮した街と歴史 先生のお便りはいつも青インク」」大阪市生涯学習センター『いちよう並木』467, 大阪市生涯学習センター, p. 3, 2022/5

橋爪節也「新おおさか KEY わーど第 23 回「三人寄れば“サロン”誕生？京都の美術館で大阪文化の精髓を見る」」大阪市生涯学習センター『いちよう並木』466, 大阪市生涯学習センター, p. 3, 2022/4

4. 口頭発表

橋爪節也（基調講演）「なにわの画家を知るための KEY ワード～シン・大阪画壇を語る～」, 大阪美術倶楽部, 2023/2

橋爪節也「アートアイランドの復活 ―“大大阪”の文化芸術発信センター中之島」, はびきの市民大学, 羽曳野市生活文化情報センター, 2022/12

橋爪節也「大阪の都市形成過程と大阪人気質（社会・文化の変遷を中心に）」常翔学園創立 100 周年記念 常翔歴史館特別企画展, 大阪工業大学梅田キャンパス, 2022/9

橋爪節也 第 1 回府民講座「1970 年の大阪万博をめぐる芸術文化（総論）」, 大阪府立中央図書館 指定管理者 長谷工・大阪共立・TRC グループ, 大阪府立中央図書館ライティホール, 2022/5

橋爪節也「描かれた大大阪 近代都市景観と画家たち」, 大阪中之島美術館, 2022/4

5. 受賞歴(2022 年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

なし

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員（国・自治体）等の引き受け状況

大阪市文化財保護審議会委員・委員, 2020 年～現在に至る

八尾市 今東光資料館・企画展示アドバイザー, 2014 年 4 月～現在に至る
大阪市中心公会堂・文化財保護アドバイザー, 2014 年 4 月～現在に至る
大阪市民表彰審査会・臨時委員, 2012 年 4 月～現在に至る

11. 外部役員等の引き受け状況

芳泉文化財団地域文化活性化助成・審査委員, 2022 年～現在に至る
毎日放送ラジオ放送審議会・放送審議委員, 2021 年～現在に至る
枚方市美術施設運営委員協議会・委員, 2021 年～現在に至る
田辺市立美術館協議会・委員, 2017 年～現在に至る
財団法人・天門美術館評議委員会・評議委員, 2017 年 4 月～現在に至る
吹田市立博物館協議会・協議会委員, 2016 年月～現在に至る
NPO 大阪美術市民会議・理事, 2015 年月～現在に至る
大正イマジュリ学会・常任委員, 2012 年 3 月～現在に至る

藤岡 穰 教授

1962 年生。東京芸術大学大学院修士課程修了。芸術学修士。大阪市立美術館学芸員、大阪大学大学院文学研究科助教授、同准教授を経て、2009 年 4 月より同教授。2022 年 4 月より大阪大学大学院人文学研究科 現職。1991 年に第 3 回国華賞、2014 年に大阪大学総長顕彰受賞。専攻：東洋美術史

1. 論文

藤岡穰 「根津美術館所蔵「金銅鎚鍔五尊仏坐像」再考 附 根津美術館所蔵金銅仏の蛍光 X 線分析の結果と所見」『此君』第 14 号, pp.5-41, 査読無, 2023/3
藤岡穰 「龍角寺薬師如来坐像の蛍光 X 線分析の結果について」『早稲田大学會津八一記念博物館研究紀要』第 24 号, pp. 81-85, 査読無, 2023/3

2. 著書（単著・編著）

なし

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等（データベース、コーパス等の開発を含む）

なし

4. 口頭発表

藤岡穰 「仏像の基礎研究—蛍光 X 線による金銅仏の成分分析から AI による仏顔の様式分析へ—」, 国際シンポジウム「宗教遺産をめぐる真正性—宗教遺産テキスト学の発展的展開—」, 名古屋大学人文学研究科附属人類文化遺産テキスト学研究センター(オンライン), 2023/3/31
藤岡穰 「阿弥陀二十五菩薩像と葛井寺」, 市指定有形文化財指定記念講演会, 葛井寺紫雲閣, 2022/11/13
Fujioka, Yutaka. “The Transmission and Creation of Miraculous Efficacy in the Early Kamakura-Period Reconstruction of Buddhist Statues at Kōfuku-ji Temple”, Workshop-Absence, Presence, and Materiality:Refiguring Japanese Religious Art and Culture(online), 2022/7/9
藤岡穰 「隋～初唐の長安における仏教造像」, 令和 4 年度第 142 回懷徳堂春季講座「仏教が塗りかえる古代東アジア史像」, オンライン, 2022/6/25
藤岡穰 「大阪市立美術館 1995 年特別展「中国の石仏」を振り返って」, 第 2 回仏教芸術学会連続講座, オンライン,

2022/6/11

5. 受賞歴(2022 年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

6-1. 2018 年度～2022 年度、基盤研究(A) 一般、代表者:藤岡穰

課題番号: 18H03571

研究課題: 3 次元データに基づく人工知能による仏顔の様式研究

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員(国・自治体)等の引き受け状況

藤井寺市文化財審議会・審議員, 2021 年 9 月～現在に至る

吹田市文化財保護審議会・委員, 2019 年 12 月～現在に至る

枚方市文化財保護審議会・委員, 2018 年 4 月～現在に至る

茨木市文化財審議会・委員, 2017 年 3 月～現在に至る

和歌山県文化財保護審議会・委員, 2012 年 4 月～現在に至る

八尾市文化財保護審議会・委員, 2009 年 9 月～現在に至る

奈良国立博物館買取等協議会・委員, 2022 年 9 月

11. 外部役員等の引き受け状況

美術史学会・西支部代表, 2021 年 6 月～2022 年 5 月

美術史学会・常任委員, 2022 年 6 月～現在に至る

仏教芸術学会・会長, 2019 年 1 月～現在に至る

摂津市史・執筆委員, 2015 年 4 月～現在に至る

神河町史編集委員会・委員, 2021 年 4 月～現在に至る

葛井寺文化遺産保存活用委員会・委員長, 2021 年 7 月～現在に至る

岡田 裕成 教授

1963 年生。大阪大学大学院文学研究科博士後期課程中退。文学修士。大阪大学文学部助手、福井大学教育地域科学部准教授、大阪大学文学研究科准教授、同教授を経て、2022 年 4 月より大阪大学大学院人文学研究科 現職。専攻：西洋美術史

1. 論文

なし

2. 著書（単著・編著）

岡田裕成, (編著者) 『帝国スペイン 交通する美術』三元社, 324p., pp. 7-23, 234-266, 2022/6/20

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等（データベース、コーパス等の開発を含む）

なし

4. 口頭発表

岡田裕成 「初期近代の植民地主義と「移住者たちの美術」」, 第 75 回美術史学会大会 シンポジウム「移住者たちの美術」, 美術史学会, 東京大学(ハイブリッド), 2022/5/21

岡田裕成 「《泰西王侯騎馬図》から読み解く イメージのグローバルな交通」, 大和文華館, 大和文華館(対面), 2022/5/1

5. 受賞歴(2022 年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

6-1. 2021 年度～2024 年度、基盤研究(B) 一般、代表者: 岡田裕成

課題番号: 21H00488

研究題目: 光学的科学調査を軸とした初期洋風画とアジア太平洋海域美術交通に関する基盤的研究

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

東京国立博物館所蔵蒔絵螺鈿聖龕羽根モザイク画《聖ステパノの殉教》デジタル復元プロジェクト（メキシコ国立自治大学フェロー：マリア・オルビード・モレノとの共同研究）

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員（国・自治体）等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

Mirai. Estudios Japeneses 誌(マドリード・コンプルテンセ大学)・編集顧問, 2017 年 2 月～現在に至る

美術史学会・常任委員, 2016 年 6 月～現在に至る

民族芸術学会・理事、副会長, 2007 年 5 月～現在に至る

桑木野 幸司 教授

1975 年生。東京大学大学院工学系研究科修士課程修了（西洋建築史）。ピサ大学大学院博士課程修了。Dottore di Ricerca

in Storia delle arti visive e dello spettacolo (文学博士 (美術史)・ピサ大学)。Kunsthistorisches Institut in Florenz
研究生、2011 年 4 月より大阪大学文学研究科准教授を経て、2020 年 4 月より同教授。2022 年 4 月より大阪大学大学院
人文学研究科 現職。専攻：西洋美術・建築・庭園史

1. 論文

- 桑木野幸司「庭園と果物」『セミナーと研究報告「庭園／植物／公園」』, pp.1-13, 査読無, 2023/3/31
- 桑木野幸司「「自然という書物」の美麗なる挿絵:15-17 世紀の博物図譜の発展とヨーロッパの視覚文化」『自然という書物:15-19 世紀のナチュラール・ヒストリー&アート』, pp.6-15, 査読無, 2023/3/18
- 桑木野幸司「未来考究 CROSS TALK:大阪大学が考える「生きがい」を育む社会」とは？」『OU RESEARCH GAZETTE』第 1 巻, pp.1-10, 査読無, 2023/3/15
- 桑木野幸司「天翔ける苑:オルティ・ファルネジアーニの尚古・博物学的庭園」『web フランス』, 査読無, 2022/3/10
<https://webfrance.hakusuisha.co.jp/posts/7054>
- 桑木野幸司「ヴィッラ・マダマ幻想:文人、建築家、エクフラシス」『web フランス』, 査読無, 2023/1/10
<https://webfrance.hakusuisha.co.jp/posts/6832>
- 桑木野幸司「宇宙誌としての建築——風の理想都市から星辰の花壇まで——」『ユリイカ』第 798 号, pp.175-184, 査読無, 2023/1/1
- 桑木野幸司「彫刻の中庭:古代をヴァーチャルに体験する空間」『白水社の本棚』, pp.10-11, 査読無, 2022/10/10
- 桑木野幸司「ルネサンス庭園と古典主義」『建築と古典主義』第 1 巻, pp.79-82, 査読無, 2022/9/5
- 桑木野幸司「デジタル・ヒューマニティーズの二〇歩手前」『Arts and Media』第 12 巻, pp.159-160, 査読無, 2022/7/31
- 桑木野幸司「眺めのいい部屋:ヴァティカン・ベルヴェデーレの中庭」『白水社の本棚』, pp.10-11, 査読無, 2022/7/10
- 桑木野幸司「ルネサンス 情報革命の時代」『ちくま新書』, pp.1-352, 査読無, 2022/5/11
- 桑木野幸司「風と楽の音につつまれたヴィッラ」『白水社の本棚』, pp.10-11, 査読無, 2022/4/10

2. 著書 (単著・編著)

- 桑木野幸司『ルネサンス 情報革命の時代』筑摩書房, 352p., 2022/5

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等 (データベース、コーパス等の開発を含む)

なし

4. 口頭発表

- 桑木野幸司「西洋建築史研究室・教育鼎談シリーズ 第五回」, 西洋建築史研究室・教育鼎談,加藤耕一研究室,東京大学大学院建築学専攻・工学部一号館(ハイブリッド), 2022/12/7
- 桑木野幸司「惑のイタリア・ルネサンス庭園—水の庭園ヴィッラ・ランテを中心に—」, 講演会,イタリア研究会,オンライン(オンライン), 2022/12/3
- 桑木野幸司「記憶術と忘却術:強すぎる精神イメージとの果て無き戦い」, 文献学の世界:書物と社会の記憶,極東証券寄付講座 春学期・水 2 限,慶應義塾大学・大学文学部(オンライン), 2022/6/15

5. 受賞歴(2022 年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

- 6-1. 2020 年度～2023 年度、基盤研究(B) 一般、代表者:桑木野幸司
課題番号:20H01208

研究題目: 初期近代西欧の視覚芸術における多様性と発想: 美術と修辞学の創造的共同

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員（国・自治体）等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

民族芸術学会・理事, 2020 年 4 月～現在に至る

地中海学会・事務局員, 2012 年 4 月～現在に至る

門脇 むつみ 准教授

1970 年生。東京大学大学院人文社会系研究科博士課程修了・博士（文学）。日本学術振興会特別研究員（PD）、城西国際大学研究員・助教・准教授を経て、2019 年 4 月より大阪大学大学院文学研究科准教授。2022 年 4 月より同大学院人文科学研究科 現職。第 14 回国華奨励賞。専攻：日本美術史／中近世絵画史

1. 論文

門脇むつみ, 「《蝦蟇帖》(大阪大学総合学術博物館蔵)とその周辺—江戸時代中後期の蛙図ブーム—」『大阪大学大学院文学研究科紀要』第 63 号, pp.199-238, 査読無, 2023/3/31

門脇むつみ 「黒田長政公と縁の什物」『南游行』第 8 号, pp.61-79, 査読無, 2022/10

2. 著書（単著・編著）

奥平俊六, 門脇むつみ, 森道彦(共著)『公益財団法人 渡辺美術館所蔵品調査報告書(第八回)』公益財団法人 渡辺美術館, pp.24-30, 2023/3

熊倉功夫, 仲隆裕, 門脇むつみ, 他(共著)『京都二条城と寛永文化』青幻舎, pp. 84-87, 2022/9/24

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等（データベース、コーパス等の開発を含む）

なし

4. 口頭発表

門脇むつみ 「狩野派「戯画図巻」と将軍家綱—観音の砲術と韋駄天の紙鳶—」, 基盤研究(B) 中近世日本の画題生成における明代出版文化の受容と展開に関する総合的研究 研究会, 基盤研究(B) 中近世日本の画題生成における明代出版文化の受容と展開に関する総合的研究, 角川本社ビル別館(対面), 2022/8/13

5. 受賞歴(2022 年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

6-1. 2020 年度～2022 年度、基盤研究(C) 一般、代表者:門脇むつみ

課題番号:20K00189

研究題目:伊藤若冲作品の画と賛一禅僧賛の読解・禅僧との交流を踏まえた作品と伝記の研究―

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

7-1. 2022 年度～2023 年度、研究助成名称:三菱財団人文科学研究助成、助成金獲得者:門脇むつみ

研究題目: 徳川将軍家の画事と狩野派周辺の描き手

助成団体名:三菱財団

助成金額:(直接経費など)100 万円

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

文化庁「地域活性化のための特色ある文化財(美術・工芸品)調査・活用事業国庫補助金」による「大雲院資料総合調査」,2017 年～現在に至る

10. 各種審議会委員(国・自治体)等の引き受け状況

豊中市文化財審議会・委員, 2021 年 4 月～現在に至る

倉吉市文化財審議委員会・文化財審議委員, 2015 年 4 月～現在に至る

丹波市文化財保護審議会・委員,2022 年 7 月～現在に至る

兵庫県文化財保護審議会・委員,2022 年 7 月～現在に至る

松原市文化財保護審議会・委員,2022 年 12 月～現在に至る

11. 外部役員等の引き受け状況

美術史学会・常任委員, 2020 年 5 月～現在に至る

八幡市立松花堂庭園・美術館・学芸顧問, 2017 年 4 月～現在に至る

河内 華子 助教

1981 年生。大阪大学文学部(美術史学)卒、同大学院文学研究科博士前期課程(美術史学)修了。同研究科博士後期課程単位取得退学。2009 年より、ルーヴェン・カトリック大学(ベルギー)文学研究科博士後期課程在学中。文学修士。大阪大学大学院文学研究科助教(2013 年度～2015 年度)を経て、2022 年 4 月より同大学院人文学研究科 現職。専攻:西洋美術史。

1. 論文

なし

2. 著書(単著・編著)

なし

3. 翻訳・書評・解説・辞典項目等（データベース、コーパス等の開発を含む）

なし

4. 口頭発表

河内華子「ヘルドルプ・ホルツィウス(1553-c.1618)のケルンにおける活動―修業地アントウェルペンとの結びつきに着目して」,
オランダ美術研究会 第4回研究発表会, オランダ美術研究会(オンライン), 2023/1/28

5. 受賞歴(2022年度)

なし

6. 科学研究費補助金の獲得状況(研究代表者となったもの)

なし

7. その他の外部資金の受け入れ状況(研究代表者となったもの)

なし

8. 研究会等の活動、国際共同研究、分野横断的研究

なし

9. 地域連携による研究活動状況

なし

10. 各種審議会委員（国・自治体）等の引き受け状況

なし

11. 外部役員等の引き受け状況

科学基礎論学会・評議員, 2020年4月～現在に至る